

くものいと No.27

KU MO NO I TO

2000 January 15

関西クモ研究会

大阪府茨木市

くものいと

No.27, jan.2000

目次

特集—クモリスト—

- | | | |
|----|--------------------------------|------|
| 1 | 今なぜ、県別リストか | 新海 明 |
| 3 | 大阪府のクモ類 | 田中穂積 |
| 19 | 京都府のクモ類 (2) | 吉田 真 |
| 29 | 京都・静原のクモ | 吉田 真 |
| 33 | 滋賀県のクモの同定記録 | 西川喜朗 |
| | フィールド紹介① | |
| 35 | 私のお気に入りのフィールド | |
| | 【兵庫県宍粟群安富町関】 | 船曳和代 |
| | 同定指南 I | |
| 37 | ワシグモ科 <i>Gnaphosidae</i> (その1) | 加村隆英 |
| | 海外の研究トレンド (1) | |
| 41 | クモ類の形質進化を探る—分子系統樹最前線— | 柘元敏也 |
| | 関西クモ研究会採集会報告 | |
| 44 | 姫路市青山 | 船曳和代 |
| | 蜘蛛エッセイ 第1回 | |
| 47 | 蜘蛛好き変人とその仲間たち—クモグッズ編— | 八幡明彦 |
| 50 | 会員ニュース | |
| 52 | Letterレター—Letter | |
| 53 | 会費のお願い | |
| 54 | 編集後記 | |

特集

—クモリスト—

今なぜ、県別リストか

新海 明

日本にはクモ好きのアマチュアの集団が各地に点在している。これらの同好会が2000年を迎えるにあたり、なすべき最重要な課題は日本各地のクモの分布資料の整備だと私は考えている。現在でも各地の研究者が精力的に調査しているのはよく知っている。また、市町村単位で出版されるクモのリストもかなり多くみられるようになったようだ。環境アセスなどの報告書でもクモが取り扱われている。分布資料は飛躍的に豊富になっているのだ。だがしかし、それでも不十分と考えている。なによりもまず、このような分布資料はできるだけ集中して蓄積され管理されることが肝要だ。散逸してはなかなか利用しにくいのである。そこで、これらの同好会の登場となる。各地の同好会が組織を挙げて、県別のクモの分布資料の整備ができないものだろうか。

私はKishidaia誌上に「夢」と題して、以下のような提案をしてみた [新海, 1999: Kishidaia(77)]。

- (1) 日本産クモ類全種のリストの作成
- (2) 現在までに発表されたクモ目録の著作リストを県別に作成
- (3) 県別リストの作成

(1) については、谷川明男さんによりほぼ完成しており、近々東京クモ談話会のKishidaiaに発表の予定である。(2) については私が現在作成中である。2000年度中に完成させたいと考えている。そして、(1)(2)のリストができれば、これをもとにして県別のクモのリストの作成が可能になろう。また、どの県が手薄なのかも歴然とするため、それらの空白県については各地の同好会が夏合宿や採集会を意図的に計画してリストを確実に作成していけばよいであろう。

1998年12月13日に大阪の四天王寺高校で行なわれた、関西クモ研究会の例会で吉田真さんは関西地方のクモ目録の整備の必要性を講演発表されていた。今後、各地のクモ同好会でこのような取り組みがなされれば、県別リストの完成はもっと早くかなうかも知れない。そのためには、各地のクモ同好会との緊密な連絡の必要性を感じている。私は、「東京クモ談話会が中心になってこの計画を推し進めるべきだ」などとはこだわっていない。要は、早急な県別リストの作成なので、誰がどのようにやっても構わない。ただ、できるだけ分割せずにまとめてもらいたいものだし、多くのクモ研究者の目に触れる場所に発表していただきたいと願っている。Kishidaiaは1997年の総会

で積極的に県別リストを掲載する方針を確認しており、そのために超過ページ代金は徴収しないことも決定されている。

できるなら、ここを発表の場として利用いただけるなら幸いである。

かつて、あれだけAtypus誌上を賑わしていた各地の分布リストであるが、いつの頃からかその発表がプツリと途絶えてしまった。どのような経緯でなくなったか私には知る由もない。けれども、日本各地にどのようなクモが生息しているのかという現状の記載は大変に重要な仕事であると考えている。これがなければ「分布論」にしても、「絶滅危惧種の選定」にしても、一切の議論が始まらないではないか。我々アマチュアが最も得意とするのはまさに「各地のリスト作り」であろう。採集リストが研究としては不当に低い評価を受けていることはよく承知をしているつもりである。それは「そのためだけ」になされているからであろう。けれど、日本に分布するクモ相を解明するためには、是非ともなされねばならない重要な仕事でもあるはずである。Kishidaiaにまもなく誕生する「目録ドラッグライン」というコーナーもこのような趣旨から生まれたものである。

今後、各地の同好会が総力を挙げて取り組めば数年以内に、県別リストの一覧は完成するに違いない。21世紀という節目自体にそれほどの意味はないが、過ぎ去った20世紀を振り返って、我々日本のクモ研究者が何をしてきたのか、何が足りなかったのかを整理するよい契機にはなるはずである。

特集 —クモリスト—**大阪府のクモ類**

田中 穂積

大阪府のクモについては、今まで断片的には発表されてきたが、総括的なものは報告されずに現在に至っている。今回、自然保護委員（日本蜘蛛学会）として、大阪府の代表となったのを機会に、今までの資料(文献)を出来るだけ探し出し、リストを作成してみた。

このリストでは41科380種が確認された。このリストには、分布の怪しいものも含まれると思われる。また、努力不足で探し得なかった資料も当然まだあると思われる。これを、今後の基礎資料として、さらに追加、修正しより正確なものにしていきたいと願っている。会員のみなさんからの報告(連絡)に期待している。

なお、種名の後の符号は文献を示しており、リストの最後に載せている。

カネコトタテグモ科 (1種)

カネコトタテグモ N1,N2,Y8

トタテグモ科 (2種)

キシノウエトタテグモ K1,K2,N1,N2,N6,Y14

キノボリトタテグモ KA1,N1,N2,N5,N6,Y5,Y11,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21

ジグモ科 (2種)

ジグモ HN1,KA1,N1,N2,N6,Y5,Y11,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ワスレナグモ K3,K4,N1,N6,Y1,Y5,Y13

ガケジグモ科 (2種)

クロガケジグモ HN1,Y7

ヤマトガケジグモ KA1,N1,Y17,Y20

ハグモ科 (6種)

アシハグモ Y9

カレハグモ KA1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21

キイロカレハグモ N2,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ネコハグモ HN1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ムツメカレハグモ N1

ヒナハグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21

ウズグモ科 (6種)

ウズグモ HN1,KA1,N1,N2,N8,Y5,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

オウギグモ N1,N2,Y5,Y11,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21

カタハリウズグモ KA1,N1,N2,N5,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

トウキョウウズグモ Y5,Y6,Y11,Y13

マツガエウズグモ Y13

マネキグモ KA1,N1,N2,N5,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

チリグモ科 (1種)

チリグモ HN1,N2,Y6,Y10,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

スオウグモ科 (1種)

ムロズミソレグモ Y9

エンマグモ科 (2種)

コマツエンマグモ N2,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ミヤグモ HN1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

タマゴグモ科 (3種)

シャラクダニグモ N2

ダニグモ N1,N2,Y13,Y15,Y19,Y21

ナルトミダニグモ N1,N2

イトグモ科 (1種)

イトグモ N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

ヤマシログモ科 (2種)

ヤマシログモ Y5,Y6,Y13,Y14

ユカタヤマシログモ HN1,N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

マシラグモ科 (1種)

ヨコフマシラグモ N1,N2

ユウレイグモ科 (3種)

イエユウレイグモ N2,Y5,Y6,Y11,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

シモングモ HN1,N2,Y6,Y10,Y13

ユウレイグモ HN1,N1,N2,N5,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ヒメグモ科 (44種)

アカイロイソウロウグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21

アシプトヒメグモ KA1,N1,N2,N5,Y5,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21,YO2

イワキアシプトヒメグモ TU1,YO2

オオヒメグモ HN1,KA1,N1,N2,N8,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

オナガグモ N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21

カガリグモ N2,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

カグヤヒメグモ N2

カニミジグモ N1,N2,N5,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

カレハヒメグモ HN1,KA1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

キベリミジグモ N2

ギボシヒメグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

コガネヒメグモ N1,N2,Y15,Y19,Y20,Y21

コンピラヒメグモ KA1,N1,N2,Y15,Y19,Y21

シモフリミジグモ N7,Y7
 シロカネイソウロウグモ N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 スネグロオチバヒメグモ N1,N2,N5
 セアカゴケグモ N3,NA1
 セマダラコノハグモ N2,Y15,Y19,Y21
 タカユヒメグモ N1,N2,N5,Y13,Y15,Y19,Y21
 チリイソウロウグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ツクネグモ N1,N5,Y10,Y13,YO1
 ツリガネヒメグモ N1,N2,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 トビジロイソウロウグモ N1,N2,Y15,Y19,Y21
 ナナホシヒメグモ Y10,Y13
 ハイイロゴケグモ N4
 バラギヒメグモ KA1,N1,N2,N5,Y15,Y19,Y21
 ハラナガヒシガタグモ KA1,OK1
 ハンゲツオスナキグモ N2,Y13,Y5
 ヒザブトヒメグモ N1,N2,Y15,Y18,Y19,Y21
 ヒシガタグモ N1,N2,N5,N7,Y13,Y15,Y19,Y21
 ヒメグモ HN1,N2,N7,Y5,Y15,Y19,Y20,Y21
 ヒロハヒメグモ KA1,N1,N2,N5,Y15,Y19,Y21
 フタオイソウロウグモ KA1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 ボカシミジグモ N2,N7,Y15,Y19,Y21
 ホシミドリヒメグモ N1,N2,Y15,Y19,Y21
 ムナボシヒメグモ KA1,N1,N2,N5,N7,Y12,Y13,Y15,Y19,Y21
 ムネグロヒメグモ Y12,Y13
 ムラクモヒシガタグモ HN1,N1,N2,OK1,Y15,Y18,Y19,Y21
 ヤホシヒメグモ N1,N5
 ヤマトコノハグモ N2,N8
 ヤマトミジグモ YO3
 ヤリグモ KA1,N1,N2,N5,Y11,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ヨツコブヒメグモ Y12,Y13,YO1
 ヨロイヒメグモ N2,Y20

ホラヒメグモ科 (2種)

コホラヒメグモ N1,N2,N5,N8,Y2,YA1
 チビホラヒメグモ Y2

サラグモ科 (コサラグモを含む) (55種)

アシナガサラグモ HN1,N2,OI1,Y15,Y19,Y20,Y21
 アシヨレグモ N2,Y13
 アトグロアカムネグモ OI1

アリマネグモ N1,N2,N5
オクチサラグモ N2,Y15,Y19,Y21 【同定,疑問(斎藤より)】
クスマサラグモ OI1
クボミケシグモ OI1
クロケシグモ OI1
コウシサラグモ N2,Y15,Y19,Y21
コデーニッツサラグモ N2,OI1
コブケシグモ OI1
ザラアカムネグモ N1
シロブチサラグモ N2,OI1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
スソグロサラグモ N2,Y15,Y19,Y21
セスジアカムネグモ N1
チビサラグモ N2,Y5,Y15,Y19,Y21
ツノケシグモ N2,OI1
ツリサラグモ KA1,N1,N2,N7,OI1,Y15,Y19,Y20,Y21
デーニッツサラグモ N1,N2,N5,OI1
ナガエヤミサラグモ IH1,N2,OI1,Y15,Y18,Y19,Y21
ナナメケシグモ OI1
ノコバヤセグモ N2
ムネグロサラグモ KA1,N1,N2,N5,Y15,Y19,Y21
ハガタヤセサラグモ Y20
ハナサラグモ N2,OI1,Y15,Y19,Y21
ハンモックサラグモ N2,Y15,Y19,Y20,Y21
フタスジサラグモ N2,Y15,Y19,Y21
ヘリジロサラグモ N1,N2,OI1,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヤガスリサラグモ N2,Y15,Y19,Y21
ヤマジサラグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
ユノハマサラグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,TU1,Y10,Y13,Y15,Y19,Y21
ヨツボシサラグモ HN1
ヨドテナガグモ OI1
アバタムナキグモ OI1
アリマネグモ OI1
カワリノコギリグモ OI1
クロナンキングモ OI1
ケズネグモ OI1
コアカサナダグモ N2
コテングヌカグモ OI1
コブアカムネグモ N2

ザラアカムネグモ N2,Y15,Y19,Y20,Y21
ズダカサラグモ OI1
ズナガヌカグモ OI1
セスジアカムネグモ N2,OI1,Y5,Y13,Y20,Y21
セムシアカムネグモ OI1
チビアカサラグモ OI1
テングヌカグモ OI1,Y20
トウキョウアカムネグモ OI1
ナニワナンキングモ OI1
ニセアカムネグモ N2,Y5,Y13
ノコギリヒザグモ N2,OI1,Y13,Y15,Y19,Y21
ハラジロムナキグモ OI1
ヒロテゴマグモ OI1
ヤマアカムネグモ OI1,Y15,Y19,Y21

カラカラグモ科 (1種)

カラカラグモ N1,Y13,KA1,N2,Y5,Y15,Y19,Y21

センショウグモ科 (4種)

オオセンショウグモ N2,Y15,Y18,Y19,Y21
コノハセンショウグモ Y13
センショウグモ KA1,N1,N2,TU1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
ハラヒロセンショウグモ KA1,N7,TU1

ヨリメグモ科 (2種)

ヨリメグモ KA1,N1
ヨロイヒメグモ N1

コツブグモ科 (1種)

ナンブコツブグモ KA1,N1,N2,Y8

コガネグモ科 (56種)

アオオニグモ N1,N2,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
アカイトリノフンダマシ N2,Y15,Y18,Y19,Y21
イエオニグモ HN1,N1,N2,N7,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21
イシサワオニグモ N2,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21
オオトリノフンダマシ N2,Y15,Y16,Y18,Y19,Y21
オニグモ HN1,KA1,N1,N2,TU1,Y5,Y6,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
カギツメカラスゴミグモ TA1
カナエグモ Y19
カラオニグモ N2
カラスゴミグモ N2,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
カラフトオニグモ N1,N2,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21

キザハシオニグモ N2,Y15,Y19,Y21
キヌアミグモ N2
キジロオヒキグモ N1
キジロゴミグモ N2,Y13,Y15,Y19,Y21
ギンナガゴミグモ N2,Y15,Y19,Y21
ギンメッキゴミグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,TA1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
クロトリノフンダマシ N2
ゲホウグモ T10,Y8,Y13
コオニグモモドキ N2,Y19,Y21
コガタコガネグモ HN1,N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
コガネグモ HN1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y16,Y18,Y19,Y20,Y21
コガネグモダマシ HN1,Y5,Y10,Y13,Y20
コゲチャオニグモ HN1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
ゴミグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,N7,N8,TA1,TU1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
サオサシゲホウグモ Y10
サガオニグモ KA1,N2,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
サツマノミダマシ HN1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
シマゴミグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
シロオビトリノフンダマシ N2,Y5,Y13,Y21
ズグロオニグモ HN1,KA1,N2,Y15,Y19,Y21
チュウガタコガネグモ N1,N2,TU1,Y10,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
トガリオニグモ N2,Y15,Y19,Y21
トゲグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21
ドヨウオニグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
トリノフンダマシ N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21
ナガコガネグモ HN1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
ナガテオニグモ Y13
ナカムラオニグモ N2,Y5,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21
ヌサオニグモ N2,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ハツリグモ N1,N2,Y12,Y13,Y20
ハナオニグモ N2,Y15,Y19,Y21
ハラビロミドリオニグモ N2
ビジョオニグモ N1,N2,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヘリジロオニグモ N2,Y15,Y19,Y21
マメイタイセキグモ TA3,Y3,Y14
マルツメオニグモ N2,Y15,Y19,Y21
ムツボシオニグモ N2,TA2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
ヤミイロオニグモ N2,Y13,Y15,Y19,Y21

ヤマオニグモ HN1,N1,N2,N7,Y15,Y18,Y19,Y21
 ヤマゴミグモ N1,N2,Y12,Y15,Y18,Y19,Y21
 ヤマシロオニグモ HN1,KA1,N1,N2,N7,TU1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ヤマトカナエグモ N2,Y15,Y21
 ヤマトゴミグモ TA1
 ヨツデゴミグモ KA1,N1,N2,TA1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ワキグロサツマノミダマシ N1,N2,N7,Y12,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21

アシナガグモ科 (17種)

アシナガグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ウロコアシナガグモ HN1,KA1,N1,N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 オオシロカネグモ HN1,N1,N2,N5,TU1,Y15,Y16,Y18,Y19,Y20,Y21
 キララシロカネグモ KA1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 キンヨウグモ N1
 コシロカネグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,N8,Y10,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21,
 シコクアシナガグモ HN1
 シナノアシナガグモ KA1
 ジョロウグモ HN1,N1,N2,N5,TU1,Y5,Y21,Y13,Y15,Y16,Y18,Y19,Y20
 タニマノドヨウグモ N1,N2,N5,TA4,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
 チュウガタシロカネグモ TU1,Y5,Y13
 トガリアシナガグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
 ヒメアシナガグモ N1,N5,Y5,Y13
 メガネドヨウグモ N2,TA4,Y13
 ヤサガタアシナガグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 ヤマジドヨウグモ N1,N2,Y15,Y19,Y21
 ヨツボシヒメアシナガグモ Y13

ヒラタグモ科 (1種)

ヒラタグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21

ホウシグモ科 (1種)

ドウシグモ N2,Y13,Y15,Y19,Y21

タナグモ科 (21種)

イエタナグモ N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y21
 ウスイロヤチグモ N2,N9,N12
 カチドキナミハグモ N2,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
 カミガタヤチグモ N1,N2,N5,N8,N10,N12
 カメンヤチグモ N1,N2,N9,N12
 クサグモ HN1,KA1,N1,N2,N7,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 クルマヤチグモ Y12,Y13
 クロヤチグモ HN1,N1,N2,N12,Y13

ケムリタナグモ Y5,Y13
コクサグモ HN1,KA1,N1,N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
シモフリヤチグモ N1,N2,N5,N8,N12,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ナミハグモ Y5
ヒメシモフリヤチグモ N2,N13
ヒメヤチグモ AR1
ヒメヤマヤチグモ N13
メガネヤチグモ HN1,N2,N10,N12,Y15,Y19,Y20,Y21
ホラズミヤチグモ N1,N2,Y15,Y19,Y21
ヤチグモ N11,Y15,Y19,Y21
ヤマヤチグモ N2,N12,Y5,Y6,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヨシアキナミハグモ N2,Y4
ヨドヤチグモ N1,N13

ハタケグモ科 (1種)

ハタケグモ KA1,N1,N2,Y5,Y15,Y19,Y21

キシダグモ科 (8種)

アオグロハシリグモ N1,N2,Y12,Y13,Y15,Y19,Y21
アズマキシダグモ N1,N2,N5,Y5,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
イオウイロハシリグモ KA1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y16,Y19,Y20,Y21
キクメハシリグモ Y13
スジアカハシリグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
スジチャハシリグモ Y5,Y13
スジプトハシリグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ハヤテグモ N1,N5

コモリグモ科 (23種)

アライトコモリグモ T2
イナダハリゲコモリグモ KA1,T7
イモコモリグモ N2,T1
ウツキコモリグモ KA1,N1,N2,N5,T9,TU1,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
カガリビコモリグモ N1,N5
カラフトコモリグモ N2
カワベコモリグモ T5
キクヅキコモリグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,T7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
キシベコモリグモ HN1,N1,T8
キバラコモリグモ N1,N2,N5,T1,Y15,Y19,Y20*,Y21
クラークコモリグモ KA1,N1,N2,N5,T1,TU1,Y10,Y13
クロココモリグモ Y10,Y13
スジプトコモリグモ Y5,Y13

チビコモリグモ N1,N2,T1,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
テジロハリゲコモリグモ T7
ナガズキンコモリグモ T2
ナミコモリグモ N1,T1
ミナミコモリグモ T1
ハタチコモリグモ N1,T6
ハラクロコモリグモ HN1,N1,N2,T3,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y21
ハリゲコモリグモ HN1,N1,N2,T7,Y5,Y13,Y15,Y18,Y19,Y20,Y21
ヒノマルコモリグモ N1,T4
ヤマハリゲコモリグモ N2,T7

ササグモ科 (2種)

クリチャササグモ N1,N2
ササグモ HN1,N1,N2,N5,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

フクログモ科 (20種)

アシナガコマチグモ KA1,N2,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
イタチグモ N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ウラシマグモ N2
オトヒメグモ N1,N2,Y19,Y21
オビジガバチグモ N1
カバキコマチグモ N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
キレオビウラシマグモ KA1,N1
コフクログモ N2,Y15,Y19,Y21
コムラウラシマグモ N1,N2,N5,Y15,Y18,Y19,Y21
トビイロフクログモ HN1,Y5,Y13
ネコグモ KA1,N1,N2,N7,Y13,Y15,Y19,Y21
ハマキフクログモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヒメフクログモ N5,Y13
ムナアカフクログモ N1,N2,N7,Y15,Y19,Y20,Y21
ヤギヌマフクログモ KA1
ヤサコマチグモ KA1
ヤハズフクログモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヤバネウラシマグモ KA1,N1
ヤマトコマチグモ Y5,Y13,Y20
ヤマトフクログモ Y5,Y13

イツツグモ科 (2種)

イツツグモ N1,N2,Y15,Y19,Y20,Y21
ナガイツツグモ N2,Y15,Y19,Y21

シボグモ科 (1種)

シボグモ KA1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

アシダカグモ科 (3種)

アシダカグモ HN1,N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y20,Y21

コアシダカグモ HN1,N1,N2,N5,N8,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

カマスグモ Y20

アワセグモ科 (1種)

アワセグモ N2,Y5,Y6,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ヒトエグモ科 (1種)

ヒトエグモ KA1,Y5,Y6,Y13,Y14

イヨグモ科 (1種)

イヨグモ Y13,Y14

ワシグモ科 (16種)

アカクロワシグモ Y15,Y19,Y21

エビチャヨリメケムリグモ KA1,KA4,N1

クロケムリグモ KA5

クロチャケムリグモ KA2,N1,N2,Y12,Y13,Y15,Y19,Y21

シノノメトンビグモ KA7

チャクロワシグモ KA1,Y15,Y19,Y21

トラフワシグモ N1,Y5,Y13

ナミトンビグモ N1

ヒメチャワシグモ KA6,N1

フタホシテオノグモ KA3,N1

ホシジロトンビグモ KA3

マエトビケムリグモ KA7,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21

ムナキワシグモ KA6,Y15,Y19,Y21

メキリグモ (N2),Y5,Y13,Y15,Y19,Y21

ヤマトフトバワシグモ N1

ヤマヨリメケムリグモ KA4,N1

カニグモ科 (21種)

アシナガカニグモ KA1,N1

アズチグモ N7,ON3,Y5,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,N2,Y21

アズマカニグモ Y13

アマギエビスグモ Y19,Y21,N2,Y15

オオヤミイロカニグモ HN1,N1,N2,N5,ON3,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

ガザミグモ N2,ON2,ON3,Y5,Y12,Y13,Y15,Y19,Y21

カトウツケオグモ N2

キハダカニグモ N2,N7,ON2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

クマダハナグモ ON1

クロボシカニグモ ON2,ON3
 コカニグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 コハナグモ KA1,N1,N2,N5,ON3,TU1,Y15,Y19,Y21
 シナカニグモ ON3,Y7
 セマルトラフカニグモ ON3
 トラフカニグモ HN1,KA1,N1,N2,ON3,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 ニッポンオチバカニグモ ON2
 ハナグモ HN1,KA1,N1,N2,N5,ON3,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 フノジグモ N1,N2,ON3,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
 ヤミイロカニグモ HN1,KA1,N1,N2,ON3,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 ヨコフカニグモ ON3
 ワカバグモ N1,N2,N5,ON3,Y5,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

エビグモ科 (8種)

アサヒエビグモ KA1,N2,N7,TU1,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 キエビグモ N1,N5
 キハダエビグモ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 キンイロエビグモ HN1,N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
 シャコグモ N1,N2,N7,Y15,Y19,Y20,Y21
 スジシャコグモ Y5,Y13
 フシグロエビグモ Y13
 ヤドカリグモ KA1,N1,N2

ハエトリグモ科 (36種)

アオオビハエトリ HN1,KA1,N1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
 アカガネハエトリ Y5,Y13
 アシブトハエトリ N1,N2,N7,TU1,Y5,Y13
 アダンソンハエトリ HN1,N2,Y5,Y6,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 アメイロハエトリ N1,N2
 アリグモ KA1,N1,N2,N5,N7,TU1,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
 イソハエトリ Y13
 イナズマハエトリ Y12,Y13
 ウススジハエトリ N2,Y15,Y19,Y21
 ウデブトハエトリ N1,N2
 エクスハエトリ Y13
 エソラハエトリ Y5
 オオハエトリ N2,Y13
 オスクロハエトリ N7,Y5,Y13
 カタオカハエトリ N1
 カラスハエトリ HN1,N1,N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

キアシハエトリ N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y21
クワガタアリグモ Y1,Y8
ジャバラハエトリ KA1
シラヒゲハエトリ HN1,KA1,N1,N2,Y5,Y6,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
シラホシコゲチャハエトリ HN1,N1
チャイロアサヒハエトリ N2,N7,Y10,Y13
チャスジハエトリ HN1,N1,N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21
デーニッツハエトリ N1,N2,Y10,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ネオンハエトリ N1
ネコハエトリ HN1,N1,N5,Y13,Y15,Y19,N2,TU1,Y5,Y20,Y21
ムツバハエトリ N1,N2,Y21
マガネアサヒハエトリ KA1,N1,Y10,Y13
マダラスジハエトリ KA1
マミジロハエトリ KA1,N1,N2,N7,TU1,Y5,Y6,Y12,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ミスジハエトリ HN1,N2,Y5,Y6,Y13,Y14,Y15,Y19,Y20,Y21
メスジロハエトリ N1,N2,N7,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヤサアリグモ KA1,N2,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21
ヤハズハエトリ N1,Y5,Y13
ヤマジハエトリ N2
ヨダンハエトリ HN1,N1,N2,N5,Y5,Y13,Y15,Y19,Y20,Y21

大阪府クモ類文献リスト

- AR1 ; Arita, T., 1976. Three new *Coelotes* (Araneae, Agelenidae) from Tottori Prefecture, West Japan. *Ann. Zool. Jap.*, 49(3): 197-204.
IH1 ; 井原 庸, 1995. Taxonomic revision of the longiscapus-group of *Arcuphantes* (Araneae: Linyphiidae) in Western Japan, with a note on the concurrent diversification of copulatory organs between males and females. *Acta arachnol.*, 44(2): 129-152.
K1 ; 金野 晋, 1993. 大阪市内のキシノウエトタテグモ. くものいと, (12):13-14.
K2 ; 金野 晋, 1994. 枚方市のキシノウエトタテグモ. くものいと, (15):6-7.
K3 ; 金野 晋, 1994. ワスレナグモの記録. くものいと, (15):20.
K4 ; 金野 晋, 1994. ワスレナグモの記録 2. くものいと, (16):18-19.
KA1 ; 加村 隆英, 1996. 妙見山付近のクモ類目録. くものいと, (20):1-6.
KA2 ; 加村 隆英, 1984. 日本のワシグモ類 (I) . *Atypus*, (85) : 1-8.
KA3 ; 加村 隆英, 1986. 日本のワシグモ類 (II) . *Atypus*, (87) : 9-20.
KA4 ; Kamura, T., 1987. Three species of the genus *Drassyllus* (Araneae:

- Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, **35**(2): 77-88.
- KA5 ; Kamura, T., 1987. Two new species of the genus *Zelotes* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Akitu*, (85): 1-8.
- KA6 ; Kamura, T., 1991. A revision of the genus *Cladothela* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, **40**(2): 47-60.
- KA7 ; Kamura, T., 1992. Two new genera of the family Gnaphosidae (Araneae) from Japan. *Acta arachnol.*, **41**(2): 119-132.
- OI1 ; Oi, R., 1960. Linyphiid spiders of Japan. *J. Inst. Polytech. Osaka City Univ. Japan*, D-11 :137-244.
- OK1 ; Okuma, C., 1994. Spiders of the genera *Episinus* and *Moneta* from Japan and Taiwan, with descriptions of two new species of *Episinus* (Araneae: Theridiidae). *Acta arachnol.*, **43**(1): 5-25.
- ON1 ; Ono, H., 1985. Eine Neue Art der Gattung *Misumenops* F. O. Picard-Cambridge, 1900, aus Japan (Araneae: Thomisidae). *Proc. Jap. Soc. Syst. Zool.*, (31): 14-19.
- ON2 ; Ono, H., 1985. Revision einiger Arten der Familie Thomisidae (Arachnida, Araneae) aus Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, Ser. A., **11**(1): 19-39.
- ON3 ; Ono, H., 1988. A revisional study of the spider family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. *Nat. Sci. Mus., Tokyo*.
- NA1 ; 夏原 由博, 1996. セアカゴケグモの生態と刺交症への対応. *生活衛生*, **40**(1) : 13-21.
- N1 ; 西川 喜朗, 1997. 「安威川総合開発事業に伴う文化財等総合調査中間報告書」 V. 生物部門 第2章 安威川流域の昆虫類およびクモ類.
- N2 ; 西川 喜朗, 1977. 「箕面川ダム自然環境の保全と回復に関する調査研究」 箕面市のクモ.
- N3 ; 西川 喜朗, 1995. 毒グモに注意! セアカゴケグモが大阪に上陸. *Nature Study*, **41**(12): 11-12.
- N4 ; 西川 喜朗・桂 孝次郎, 1996. ハイイロゴケグモも大阪に上陸. *Nature Study*, **42**(1): 19.
- N5 ; 西川 喜朗, 1994. 安威川のクモ. *くものいと*, (14): 26-27.
- N6 ; 西川 喜朗, 1996. 追手門学院大学内のトタテグモ類. *くものいと*, (21): 8-9.
- N7 ; 西川 喜朗, 1999. 吉住氏採集の大阪府枚方市のクモ. *くものいと*, (25): 5-6.
- N8 ; 西川 喜朗, 1972. 大阪府北部の廢抗の蛛形類. *追大文紀*, (6) : 95-102.
- N9 ; 西川 喜朗, 1973. 日本産 *Coelotes* (ヤチグモ属) の2新種. *追大文紀*, (7) : 75-81.
- N10 ; 西川 喜朗, 1974. 日本産のヤチグモ属 (*Coelotes*) 総説. *追大文紀*, (8) : 174-182.

- N11 ; 西川 喜朗,1975. ヤチグモ (*Coelotes exitialis*) の分布と変異について (報) . 追大文紀,(9) : 175-187.
- N12 ; 西川 喜朗,1976. 日本産ヤチグモ属の地理的分布 (予報) . 追大創立十周年記念論集, 1043-1066.
- N13 ; 西川 喜朗,1977. 大阪府箕面産ヤチグモの3新種. *Acta arachnol.*, 27(Special No.): 33-44.
- TU1 ; 東條 清,1998. 関西クモ研究会 採集会報告. くものいと,(24): 1-3.
- T1 ; Tanaka, H., 1988. Lycosid spiders of Japan I. The genus *Pirata* Sundevall. *Acta arachnol.*, 36(1): 33-77.
- T2 ; Tanaka, H., 1988. Lycosid spiders of Japan II. The genus *Trochosa* C.L.Koch. *Acta arachnol.*, 36(2): 93-113.
- T3 ; Tanaka, H., 1990. Lycosid spiders of Japan III. The genus *Lycosa* Latreille. *Sonoda Women's College Studies*, (24): 193-213.
- T4 ; Tanaka, H., 1990. Lycosid spiders of Japan IV. The genus *Tricca* Simon. *Acta arachnol.*, 39(1): 21-26.
- T5 ; Tanaka, H., 1991. Lycosid spiders of Japan VII. The genus *Arctosa* C. L. Koch. *Sonoda Women's College Studies*, (25): 289-316.
- T6 ; Tanaka, H., 1992. Lycosid spiders of Japan VIII. The genus *Alopecosa* Simon. *Sonoda Women's College Studies*, (26): 315-340.
- T7 ; Tanaka, H., 1993. Lycosid spiders of Japan IX. The genus *Pardosa* C.L. Koch
-*amentata*-group-. *Sonoda Women's College Studies*, (27): 261-318.
- T8 ; Tanaka, H., 1993. Lycosid spiders of Japan X. The genus *Pardosa* C.L.Koch
-*monticola*-group-. *Bull. B iogeogr. Soc. Japan*, 48(1): 9-16.
- T9 ; Tanaka, H., 1993. Lycosid spiders of Japan XI. The genus *Pardosa* C.L. Koch
-*paludicola*-group-. *Acta arachnol.*, 42(2): 159-171.
- T10 ; 田中 穂積,1995. ゲホウグモとウサギ. くものいと,(19): 1-2.
- TA1 ; Tanikawa, A., 1992.
A revisional study of the Japanese spiders of the genus
Cyclosa Menge (Araneae: Araneidae). *Acta arachnol.*, 41(1): 11-85.
- TA2 ; Tanikawa, A., 1995.
A revision of the Japanese spiders of the genus *Araniella*
(Araneae: Araneidae). *Acta arachnol.*, 44(1): 51-60.
- TA3 ; Tanikawa, A., 1997. Japanese spiders of the genus *Ordgarius* (Araneae: Araneidae). *Acta arachnol.*, 46(2): 101-110.
- TA4 ; Tanikawa, A., 1992. A revision of the Japanese spiders of the genus
Metleucauge Levi, 1980 (Araneae: Tetragnathidae). *Acta arachnol.*,

- 41(2): 161-175.
- HN1 ; 本多 政雄, 1996. クモ類 VI 寝屋川市内に生息するクモの目録.
わたしたちのまち 寝屋川の自然 (増補版) .
- Y1 ; 八木沼 健夫, 1994. クモ雑録 (II) . くものいと, (14): 10-13.
- Y2 ; Yaginuma, T., 1970.
Two new species of small Nesticid spiders of Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo*, 13(3): 385-394.
- Y3 ; 八木沼 健夫, 1958. 鳥糞に擬するクモ数種. 兵庫生物, 3(4) : 1-3.
- Y4 ; Yaginuma, T., 1968. A new sixd-eyed spider of the genus *Cybaeus*. *Acta arachnol.*, 21(2): 31-33.
- Y5 ; 八木沼 健夫, 1938. 大阪府産蜘蛛目録. *Acta arachnol.*, 3(1): 2-14.
- Y6 ; 八木沼 健夫, 1940. 蜘蛛類研究報告 (I) . *Acta arachnol.*, 5(2): 123-132.
- Y7 ; 八木沼 健夫, 1967. 日本産真正蜘蛛類の検討・追加ならびに7新種の記載.
追手門学院研究論集, (1): 87-107.
- Y8 ; 八木沼 健夫, 新海栄一, 1971. 分布資料. *Atypus*, (55): 33-34.
- Y9 ; 八木沼 健夫, 新海栄一, 1975. 分布資料. *Atypus*, (64): 26.
- Y10 ; 八木沼 健夫, 1939. 大阪府産蜘蛛目録 (2) . *Acta arachnol.*, 4: 119-121.
- Y11 ; 八木沼 健夫, 1940. 大阪府の蜘蛛 (1) . 我等の自然, (2): 3-12.
- Y12 ; 八木沼 健夫, 1941. 大阪府産蜘蛛目録 (3) . *Acta arachnol.*, 6: 34-35.
- Y13 ; 八木沼 健夫, 1950. 大阪府産蜘蛛類 (1) . 蜘蛛の研究, (1) : 1-18.
- Y14 ; 八木沼 健夫, 1958. 大阪の自然. 動物 III (クモ) . *Nature Study*, 4(3): 12.
- Y15 ; 八木沼 健夫, 1965. 箕面山の動物相調査. 8. Arachnida 真正蜘蛛類.
大阪府農林部.
- Y16 ; 八木沼 健夫, 1968. 明治の森箕面国定公園 一箕面の自然一. 大阪府.
- Y17 ; T. Yaginuma, 1959.
Three new spiders collected by the scientific expeditions of
the Osaka Museum of Natural History (*Tetragnatha, Cyclosa & Titanoecca*).
Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., (11): 11-15.
- Y18 ; 八木沼 健夫, 1966. 箕面のクモ. 箕面の生物, 2(4) : 3-11.
- Y19 ; 八木沼 健夫, 1966. 箕面産真正蜘蛛類目録. 箕面の生物, 2(5) : 11-19.
- Y20 ; 八木沼 健夫, 1967. 東大阪市の動物 一生駒山を中心とする一 VI 蜘蛛類
Pp.19-21. 東大阪市役所
- Y21 ; 八木沼 健夫, 1967. 箕面山の動物相調査 (改訂版) . 8. Araneae 真正蜘蛛類.
Pp. 207-216. 大阪府農林部.
- YA1 ; Yamaguchi, T. and T. Yaginuma, 1971. The fauna of the Insular
Lavacaves in West Japan. VIII. Araneae (Part 2).
- YO1 ; Yoshida, H., 1979. Notes on the Japanese species of the genus *Phoroncida*
(Araneae: Theridiidae). *Acta arachnol.*, 28(2): 45-51.

YO2 ; Yoshida, H., 1986. The spider genus *Anelosimus* (Araneae: Theridiidae) in Japan and Taiwan. *Acta arachnol.*, **34**(2): 31-39.

YO3 ; 吉田 哉, 1991. 日本産ミジングモ属 (クモ目: ヒメグモ科) の2種. *Acta arachnol.*, **40**(2): 33-35.

最後になりましたが、今回のリストを作成するのに際し、古い種名に関して、次の方々、池田博明様、小野展嗣様、加村隆英様、斎藤博様、谷川明男様、西川喜朗様、林俊夫様、吉田哉様には大変お世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

特集 —クモリスト—**京都府のクモ類 (2)**

吉田 真

筆者は1980年以降の文献を元にして京都府のクモのリストを作成し、「くものいと」21号に「京都府のクモ類」として掲載した(吉田 1996)。このリストでは27科173種があげられていた。その後、今年(2000)の5月29日に立命館大学で行われた関西クモゼミの参加者から新たな情報をいただいた。さらに、私が1990年と1991年に京都市左京区市原静原町で行ったピーティング調査で採集したクモのデータ(吉田 1999)を補足し、新たなリストを作成した。

その結果、京都府で34科244種の生息が確認された。ようやく200種の大台を越えたわけだが、この種数は東京の約半分である。こんなことでは、「Kishidaia には負けへんで」と喧嘩を売っても、負け犬の遠吠えにしか聞こえまい。とりあえず、次は270種を目指して頑張りたいと思うので、皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

標本の同定や情報の提供をしていただいた加村隆英・牧野達也・西川喜朗・斎藤博・林俊夫の各氏に厚く御礼申し上げる。

京都府クモ類リスト

(符号はデータの出所を示す)

トタテグモ科 (2種)

キシノウエトタテグモ T, S, Y1 (巢)

キノボリトタテグモ T (巢), S (巢), Y1

ジグモ科 (2種)

ジグモ YA

ワスレナグモ K1

ガケジグモ科 (1種)

クログケジグモ T (京大構内), Y4 (左京区二軒茶屋)

ハグモ科 (2種)

ネコハグモ T, Y1

アシハグモ YA

ウズグモ科 (4種)

ウズグモ T, S, YA, K3

カタハリウズグモ YA

オウギグモ Y1, Y4

マネキグモ Y2, YA, Y9

チリグモ科 (1種)

チリグモ MAK

エンマグモ科 (2種)

ミヤグモ Y3

シマミヤグモ SK (冠島)

イトグモ科 (1種)

イトグモ K4

ヤマシログモ科 (1種)

ユカタヤマシログモ MAK

ユウレイグモ科 (2種)

イエユウレイグモ T

ユウレイグモ S, YA

ヒメグモ科 (31種)

アシプトヒメグモ YA, K3, Y9

オオヒメグモ T, S, Y1, YA, K3, Y9

オダカグモ YA

オナガグモ S, Y1, YA, K3, Y9

カグヤヒメグモ YA

カニミジグモ S, Y1, YA, K3, Y9

カレハヒメグモ S, YA, Y9

キベリミジグモ YA

コガネヒメグモ Y9

コケヒメグモ S

コンピラヒメグモ YA, Y9

シモフリミジグモ YA

シロカネイソウロウグモ T, Y9

タカユヒメグモ YA, K3

チリイソウロウグモ T, Y1, YA

ツノナガイソウロウグモ Y9

ツクネグモ K3

ツリガネヒメグモ YA

ハイイロヒメグモ Y9

バラギヒメグモ S, YA, K3, Y9

ハラナガヒシガタグモ YA, K3

ハンゲツオスナキグモ YA

ヒシガタグモ YA, K3, Y9

ヒメグモ T, Y1, YA, K3, Y9

ヒロハヒメグモ S, YA

フタオイソウロウグモ T, S, Y1?, YA, K3, Y9
ボカシミジングモ YA
ホシミドリヒメグモ Y9
ムナボシヒメグモ S, YA, K3, Y9
ヤリグモ YA, K3, Y9
ヨツコブヒメグモ YA

サラグモ科 (19種)

アシナガサラグモ Y1, YA
アシヨレグモ T, S, YA
アトグロアカムネグモ Y9
クスミサラグモ Y2, YA, K3, Y9
クロナンキングモ Y9
コトガリアカムネグモ Y9
セスジアカムネグモ Y1, Y9
ツリサラグモ S, YA, K3
デーニッツサラグモ K3
ニセアカムネグモ YA
ヌカグモ Y2, Y3, Y9
ノコギリヒザグモ Y9
ハラジロムナキグモ Y9
ヒロテゴマグモ Y9
ヘリジロサラグモ K3
ムネグロサラグモ S, YA, K3
ヤマアカムネグモ Y9
ユノハマサラグモ S, YA, K3, Y9
ヨツボシサラグモ YA, K3

センショウグモ科 (2種)

センショウグモ YA, K3
ハラビロセンショウグモ YA

ヨリメグモ科 (1種)

ヨリメグモ Y1

コガネグモ科 (44種)

アオオニグモ S, Y1, YA, K3, Y9
イエオニグモ Y1
イシサワオニグモ YA
オオトリノフンダマシ YA
オニグモ K3
カラオニグモ K3

カラフトオニグモ S, YA, K3, Y9
キザハシオニグモ YA
キジロオヒキグモ Y4
キジロゴミグモ S, YA, K3
ギンナガゴミグモ MAS
ギンメッキゴミグモ T, S, Y1, K3
ゲホウグモ YA
コガタコガネグモ Y1, YA, Y9
コガネグモ Y3, S, YA
コガネグモダマシ YA, Y9
ゴミグモ S, Y1, YA, K3, Y9
サガオニグモ S, Y1, K3, Y9
サツマノミダマシ YA
シロオビトリノフンダマシ YA
ズグロオニグモ T, K3
スズミグモ YA
チュウガタコガネグモ S, YA, Y9
トガリオニグモ YA, K3, Y9
トゲグモ Y10
ドヨウオニグモ Y9
トリノフンダマシ YA, K3
ナガコガネグモ Y1, YA, Y9
ナカムラオニグモ YA, Y9
ヌサオニグモ YA, K3
ハツリグモ T, Y1,
ハラビロミドリオニグモ K3
マルツメオニグモ YA
ムツトゲイセキグモ Y6, Y7
ムツボシオニグモ Y2, YA, K3, Y9
ヤエンオニグモ Y9
ヤマオニグモ YA, Y9
ヤマゴミグモ S, YA
ヤマシロオニグモ S, YA, K3, Y9
ヤマトカナエグモ YA, K3
ヤミイロオニグモ YA, K3
ヨツデゴミグモ S, Y1, K3, Y9
ヨツボシショウジョウグモ YA
ワキグロサツマノミダマシ Y1, YA, Y9

カラカラグモ科 (1種)

ヤマジグモ SK

アシナガグモ科 (11種)

アシナガグモ Y2, Y3, T, YA, K3, Y9
ウロコアシナガグモ Y2, Y3, T, YA, K3, Y9
オオシロカネグモ Y2, Y3, Y1, YA, K3, Y9
キララシロカネグモ YA
キンヨウグモ K13
コシロカネグモ Y2, YA, Y9
シナノアシナガグモ K3
ジョロウグモ T, Y1, YA, K3, Y9
タニマノドヨウグモ Y2, Y3, Y1, Y9
メガネドヨウグモ K3, Y9
ヤサガタアシナガグモ Y2, Y3, Y1, YA, Y9

ヒラタグモ科 (1種)

ヒラタグモ T, S, Y1, K3

ホウシグモ科 (1種)

ドウシグモ SK

タナグモ科 (11種)

ウスイロヤチグモ K3
カミガタヤチグモ Y1, K3
カメンヤチグモ Y1, K3
クロヤチグモ Y1, K3
クサグモ Y3, S, YA, Y9
コクサグモ Y2, T, S, Y1, YA, Y9
ヒメシモフリヤチグモ Y1, K3
ホラズミヤチグモ S, K3
メガネヤチグモ Y3
ヤマヤチグモ Y1, Y9
ヤマヤチグモの一種 Y9

ミズグモ科 (1種)

ミズグモ N, K2, YA

キシダグモ科 (5種)

アオグロハシリグモ Y9
アズマキシダグモ T, Y1, K3
イオウイロハシリグモ Y1, YA, K3, Y9
スジアカハシリグモ Y1, YA, K3
スジプトハシリグモ Y9

コモリグモ科 (19種)

- イソコモリグモ T2
- イナダハリゲコモリグモ Y,T6
- イモコモリグモ T4
- ウツキコモリグモ Y1, YA, K3, Y9
- エビチャコモリグモ T5
- カガリビコモリグモ T2
- カワベコモリグモ T5
- キクヅキコモリグモ Y1, YA
- キシベコモリグモ T7,T8
- キバラコモリグモ Y1, YA,T3,T4
- クラークコモリグモ T4
- コガタコモリグモ T2
- チビコモリグモ Y1,T4
- ナミコモリグモ T3.T4
- ハリゲコモリグモ Y1, YA, K3,T6
- ヒノマルコモリグモ Y1
- ミナミコモリグモ YA,T4
- ヤマトコモリグモ T3
- ヤマハリゲコモリグモ Y1, YA

ササグモ科 (2種)

- クリチャササグモ Y3
- ササグモ Y1, YA, Y9

フクログモ科 (11種)

- アシナガコマチグモ YA
- イタチグモ Y1, YA
- ウエノフクログモ Y9
- コムラウラシマグモ Y1, K3
- トビイロフクログモ YA
- ヤハズフクログモ K3
- ネコグモ YA, K3, Y9
- ハマキフクログモ YA
- ヒメフクログモ Y9
- ムネアカフクログモ YA
- ヤマトコマチグモ YA

イツツグモ科 (1種)

- イツツグモ S, K3, Y9

シボグモ科 (1種)

シボグモ Y1, YA, K3

アワセグモ科 (1種)

アワセグモ S

ヒトエグモ科 (1種)

ヒトエグモ MAK, Y8

アシダカグモ科 (3種)

アシダカグモ Y3

カマスグモ MAK

コアシダカグモ S, Y1, YA, K3

ワシグモ科 (16種)

エビチャヨリメケムリグモ K7

カワラメキリグモ K9

クロケムリグモ K6

クロチャケムリグモ Y1, KA

ナミトンビグモ K10

ヒトオビトンビグモ YA?, KA, K12

ヒメヨリメケムリグモ K7

ヒメチャワシグモ K11

フタホシテオノグモ K5

ホシジロトンビグモ K5

マエトビケムリグモ YA, K12

メキリグモ K9

モリメキリグモ K9

ヤマトフトバワシグモ K8

ヤマヨリメケムリグモ K7

ヨツボシワシグモ K5

カニグモ科 (13種)

アズチグモ YA

アマギエビスグモ K3, Y9

オオヤミイロカニグモ YA, Y9

カトウツケオグモ MAK (京都市東山区)

キハダカニグモ T, S, YA

コハナグモ Y3, YA, K3, Y9

シャコグモ YA

セマルトラフカニグモ YA, Y9

トラフカニグモ Y1, K3, Y9

ハナグモ S, Y1, YA, K3, Y9

ヤドカリグモ YA

ヤミイロカニグモ YA, K3

ワカバグモ Y2, S, YA, K3, Y9

エビグモ科 (5種)

アサヒエビグモ YA, K3, Y9

キエビグモ K3

キハダエビグモ T

キンイロエビグモ Y2, K3, Y9

シャコグモ K3

ハエトリグモ科 (26種)

アオオビハエトリ Y1, YA

アシプトハエトリ T, Y1, YA

アリグモ YA, K3

イナズマハエトリ YA

ウススジハエトリ K3

ウデプトハエトリ Y1

オスクロハエトリ Y1?, YA, Y9

オオハエトリ K3

カラスハエトリ YA

キアシハエトリ YA

シラヒゲハエトリ MAK

チャイロアサヒハエトリ YA

チャスジハエトリ Y3

デーニッツハエトリ K3, Y9

ネコハエトリ S, YA, K3, Y9

マガネアサヒハエトリ YA, K3, Y9

マミクロハエトリ Y9

マミジロハエトリ K3, Y9

ミスジハエトリ T

ムツバハエトリ K3

メガネアサヒハエトリ YA

メスジロハエトリ YA

ヤサアリグモ YA, Y9

ヤハズハエトリ YA

ヤマジハエトリ YA, K3

ヨダンハエトリ YA

引用文献

- 加村隆英. 1984. 京都北山 (特に芦生地方) のクモ及びシナノアシナガグモ採集記録. くものいと,(3): 4-6. K3
- 加村隆英. 1984. 日本のワシグモ類 (I) . *Atypus*, (85): 1-8. K4
- 加村隆英. 1986. 日本のワシグモ類 (II) . *Atypus*, (87): 9-20. K5
- Kamura, T. 1987. Two new species of the genus *Zelotes* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Akitu*, N. Ser., (85): 1-7. K6
- Kamura, T. 1987. Three species of the genus *Drassyllus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 35: 77-88. K7
- Kamura, T. 1987. Redescription of *Odontodrassus hondoensis* (Araneae: Gnaphosidae). *Proc. Japn. Soc. Syst. Zool.*, (36): 29-33. K8
- Kamura, T., 1988. A revision of the genus *Gnaphosa* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Akitu*, N. Ser., (97): 1-14. K9
- Kamura, T., 1989. A new species of the genus *Herpyllus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Arachnol. Pap. pres. Yaginuma*, Osaka, pp. 111-115. K10
- Kamura, T., 1991. A revision of the genus *Cladothela* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 40: 47-60. K11
- 加村隆英. 1991. ワスレナグモは湿原にもいる. くものいと, (9): 6-7. K1
- Kamura, T., 1992. Two new genera of the family Gnaphosidae (Araneae) from Japan. *Acta arachnol.*, 41: 119-132. K12
- 加村隆英. 1992. 深泥池のミスグモ——その後. くものいと,(10): 1-2. K2
- 牧野達也. 1999. 蜘蛛礁計画. くものいと,(20): 1-6. MAK
- 牧野達也. 未発表. MAK2
- 梶元敏也. 未発表. MAS
- 笹川満廣・加村隆英. 1983. 真正クモ類. 冠島動植物調査報告書, (株) 関西総合環境センター, pp. 31-33. SK
- 新海明. 1993. 洛北鷲森神社のクモ類 (1) . くものいと,(12): 1-3. S
- 田中穂積. 1994. 糺の森 (下鴨神社) 採集記. くものいと,(16): 15-17. T
- 田中穂積. 1999. コモリグモ科標本のデータの追加 (リスト). *Kishidaia*, 77: 119-124. T2
- 田中穂積. 1974. Japanese wolf spiders of the genus *Pirata*, with descriptions of five new species (Araneae: Lycosidae). *Acta arachnol.*, 26: 22-45. T3
- 田中穂積. 1988. Lycosid spiders of Japan. I. The genus *Pirata* Sundevall. *Acta arachnol.*, 36: 33-77. T4
- 田中穂積. 1991. Lycosid spiders of Japan. VIII. The genus *Arctosa*. C. L. Koch 園田学園女子大学論文集, 25: 289-316. T5
- 田中穂積. 1993. Lycosid spiders of Japan. IX. The genus *Pardosa* C. L. Koch. 園田学園女子大学論文集, 27: 261-318. T6

- 田中穂積. 1993. Lycosid spiders of Japan. X. The genus *Pardosa* C. L. Koch
—*monticola*-group. *Bull. Biogeograph. Soc. Japan*, 48: 9-16.
- 田中穂積. 1977. 日本産オオアシコモリグモ属 2 新種の記載. *Acta arachnol.*,
27 (special number): 51-59. T8
- 西川喜明. 1993. 深泥池のミズグモ発見記. くものいと, (13): 1-3. N
- 畑守有紀. 1994. 京都府田辺町・里山の秋のクモ. くものいと, (16): 12-14. H
- 八木沼健夫・吉田真・加村隆英. 1981. 深泥池とその周辺の真正蜘蛛類.
深泥池の自然と人 (深泥池学術調査報告書京都市文化観光局), 238-244. YA
- 吉田真. 1993. 二軒茶屋はクモの宝庫—第 1 回市民向けクモ観察会報告.
くものいと, (12): 20-22. Y1
- 吉田真. 1995. 川の中州に生息するクモ類. くものいと, (17): 4-7. Y2 (美山町)
- 吉田真. 未発表 Y3
- 吉田真. 1997. 航平君お手柄キジロオヒキグモをゲット. 深泥池ニュース, 35:10. Y4
- 吉田真. 1997. 二軒茶屋の観察会で確認されたクモ. くものいと, (23): 20. Y5
- 吉田真. 1997. ムツトゲイセキグモの採集記録. くものいと, (23): 15. Y6
- 吉田真. 1997. 西川忠樹さんへの手紙. くものいと, (23): 12. Y7
- 吉田真. 1999. ヒトエグモ (*Plator nipponicus*) についての覚え書き. くものいと,
(26): 17-22. Y8
- 吉田真. 1999. 京都・静原のクモ. くものいと, (27): 29-32. Y9

特集 —クモリスト—**京都・静原のクモ**

吉田 真

静原（京都市左京区市原静原町）は、大原から峠をひとつ越えた美しい集落である。筆者は1990年から数年間、この集落を流れる静原川付近でタニマノドヨウグモなどアシナガグモ科のクモを調査していた。タニマノドヨウグモとオオシロカネグモが年1化生の生活史をもつことはすでに分かっていたが、アシナガグモとヤサガタアシナガグモの生活史は分かっていたいなかったので、1990年から1991年にかけて、月1回のピーティングを行い、これらの種の体長分布を調べた。

今回の報告はその副産物であり、ピーティングで採集されたクモを調べたものである。その結果、14科90種の生息が確認された。ピーティングという採集方法のために、コモリグモ科・ワシグモ科など地上徘徊性のクモはほとんどあるいは全く採集されなかった。

標本を同定していただいた西川喜朗氏・斎藤博氏・林俊夫氏・加村隆英氏に厚く御礼申し上げる。

ウズグモ科（1種）

マネキグモ

ヒメグモ科（17種）

アシプトヒメグモ

オオヒメグモ

オナガグモ

カニミジグモ

カレハヒメグモ

コガネヒメグモ

コンピラヒメグモ

シロカネイソウロウグモ

ツノナガイソウロウグモ

ハイイロヒメグモ

バラギヒメグモ

ヒシガタグモ

ヒメグモ

フタオイソウロウグモ

ホシミドリヒメグモ

ムナボシヒメグモ

ヤリグモ

サラグモ科 (11種)

アトグロアカムネグモ

クスミサラグモ

クロナンキングモ

コトガリアカムネグモ

セスジアカムネグモ

ヌカグモ

ノコギリヒザグモ

ハラジロムナキグモ

ヒロテゴマグモ

ヤマアカムネグモ

ユノハマサラグモ

コガネグモ科 (17種)

アオオニグモ

コガタコガネグモ

コガネグモダマシ

カラフトオニグモ

ゴミグモ

サガオニグモ

チュウガタコガネグモ

トガリオニグモ

ドヨウオニグモ

ナガコガネグモ

ナカムラオニグモ

ムツボシオニグモ

ヤエンオニグモ

ヤマオニグモ

ヤマシロオニグモ

ヨツデゴミグモ

ワキグロサツマノミダマシ

アシナガグモ科 (8種)

アシナガグモ

ウロコアシナガグモ

オオシロカネグモ

コシロカネグモ

ジョロウグモ

タニマノドヨウグモ

メガネドヨウグモ
ヤサガタアシナガグモ

タナグモ科 (4種)

クサグモ
コクサグモ
ヤマヤチグモ

ヤマヤチグモの一種 (西川氏によれば,この種は滋賀県で数回見つかっているが,
京都では初記録とのこと。新種候補種)

キシダグモ科 (3種)

アオグロハシリグモ
イオウイロハシリグモ
スジプトハシリグモ

コモリグモ科 (1種)

ウツキコモリグモ

ササグモ科 (1種)

ササグモ

フクログモ科 (3種)

ウエノフクログモ
ネコグモ
ヒメフクログモ

イツツグモ科 (1種)

イツツグモ

カニグモ科 (7種)

アマギエビスグモ
オオヤミイロカニグモ
コハナグモ
セマルトラフカニグモ
トラフカニグモ
ハナグモ
ワカバグモ

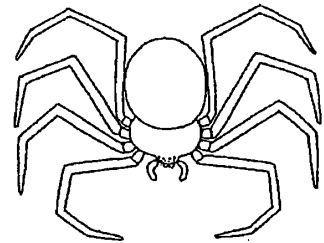
エビグモ科 (2種)

アサヒエビグモ
キンイロエビグモ

ハエトリグモ科 (7種)

オスクロハエトリ
デーニツハエトリ
ネコハエトリ
マガネアサヒハエトリ

マミクロハエトリ
マミジロハエトリ
ヤサアリグモ



ヒトエグモの分布記録

清水裕行さんが、ヒトエグモの分布に関して八木沼先生が書かれた記述などを丹念に調べてくれた。その結果、以下のことが分かったので、ここで簡潔に報告しておく。「」内はヒトエグモに関する記述である。清水さんの文献検索の結果、奈良県には確かにヒトエグモが分布していること、沖縄でも不確実ながら記録があることが分かった。詳細はいずれ清水さんがまとめられ、発表されると思う（文責：吉田）。

1) 文献上の記録

八木沼健夫. 1938. 大阪府産蜘蛛目録. *Acta arachnol.*, 3(1): 13. 「*Hitoegumoa nipponica* Kishida ヒトヘグモ 大阪平野, 殖生台地 (泉北丘陵)」

八木沼健夫. 1961. 科・属・種の検討. 「1934年以來, 大阪府と堺市で多数」

八木沼健夫. 「ヒトエグモの写真」. *Atypus* 43: 表紙. (東淀川区で1963年4月21日採集したもの)

八木沼健夫・新海栄一. 1972. 分布資料. *Atypus* 58: 43. 「*Hitoyegumoa nipponica* Kishida. 奈良県元興寺, ?-Ⅷ-1971, ♀; 山口エミ子氏」

岸田久吉編著. 1959. 沖縄産動物目録: p375. 「*Hitoegumoa nipponica*」(引用文献の記述もなく, 誰がどこで採集したか不明)

2) 未公開の記録

八木沼先生の採集ノートに「*Hitoegumoa nipponica* 採集年月日: 昭和12年3月14日, 採集地: 住吉区鷹合町 (現在の東住吉区鷹合町およびその周辺, 先生の自宅がある針中野を含む)

特集 —クモリスト—**滋賀県のクモの同定記録**

西川 喜朗

今年(1999年)に4度滋賀県を訪れる機会があり、わずかながらクモを採集することができたので、同定結果を報告する。採集日と調査地は以下のとおり。

7月17日、滋賀県高島郡朽木村柏ふれあいの里, 250m~350m alt. (野戸章, 西川喜朗採集)。

7月20日、滋賀県坂田郡米原町米原、青岸寺うら110m alt. 西川採集。

8月25日、26日、滋賀県高島郡安曇川町中野、びわこ台180m alt. 西川採集。

8月26日、滋賀県高島郡高島町、八洲滝 630m alt. 西川採集 (シフティング)

10月10日、滋賀県滋賀郡志賀町、比良山、八雲ヶ原~金糞峠890m alt. 西川採集(シフティング)。

10月10日、滋賀県滋賀郡志賀町、比良山、山上駅~金糞峠980m alt. 西川採集 (シフティング)。

報告にあたり、調査にご協力いただいた野戸章さんに感謝いたします。

目録は、和名、個体数、産地(略記)、採集月日の順に記録した。

目 録**ヒメグモ科**

ヒメグモ 1♀y朽木7.17 1♀びわこ台8.25

オオヒメグモ 1♀朽木7.17

ヨロイヒメグモ 3♀1♂びわこ台8.25 21♀7♂びわこ台8.26

コガネヒメグモ 1♀朽木7.17

サラグモ科

アシュウヤミサラグモ 1♀比良山八洲ノ滝8.26

ムネグロサラグモ 1♀朽木7.17

ツノケシグモ 1♀米原7.20

アリマネグモ 1♀米原7.20

ヨリメグモ科

ヨリメグモ 1♀2♂米原7.20

コガネグモ科

ヤミイロオニグモ 1♂朽木7.17

ナガコガネグモ 1y朽木7.17

カラスゴミグモ 1♂朽木7.17

ギンナガゴミグモ 1♀朽木7.17

ゴミグモ 2♀1y3♂びわこ台8.26

アシナガグモ科

- オオシロカネグモ 1♀朽木7.17 1♀1♂米原7.20
コシロカネグモ 1♀朽木7.17
キララシロカネグモ 1♀びわこ台8.25
タニマノドヨウグモ 1♀1♂朽木7.17
ジョロウグモ 1y朽木7.17
ヤサガタアシナガグモ 1♂朽木7.17

タナグモ科

- クサグモ 1♀y1♀y朽木7.17
ヤチグモ sp. 3y朽木7.17 2yびわこ台8.25
ヤチグモの一種 (伊吹山と同種?) 1♀比良山山上駅10.10
ヨシアキナミハグモ (近似種) 1♂比良山八雲ヶ原10.10

ハタケグモ科

- ハタケグモの一種 1♀朽木7.17

キシダグモ科

- アオグロハシリグモ 1♂y朽木7.17

コモリグモ科

- ウツキコモリグモ 2♀3♂y朽木7.17
クラークコモリグモ 1♀朽木7.17
イモコモリグモ 1♀朽木7.17

フクログモ科

- イタチグモ 1♀1♂1♀y朽木7.17 1♀1♂y1y米原7.20 1yびわこ台8.26
オトヒメグモ 2yびわこ台8.26
コムラウラシマグモ 1♂比良山山上駅10.10
ウラシマグモ 1♀朽木7.17
ヤバネウラシマグモ 1♂朽木7.17 2♀米原7.20

シボグモ科

- シボグモ 1♀y米原7.20 1♀びわこ台8.26 1bびわこ台8.26

カニグモ科

- コハナグモ 1yびわこ台8.26
ワカバグモ 1♀yびわこ台8.26
カニグモの一種 1yびわこ台8.26 1y比良山八雲ヶ原10.10

ハエトリグモ科

- ヨダンハエトリ 1♀1♂yびわこ台8.26
アメイロハエトリの一種 1yびわこ台8,26

フィールド紹介 ①

私のお気に入りのフィールド

【兵庫県宍粟郡安富町関】

船曳 和代

私のお気に入りのフィールドは、兵庫県宍粟郡安富町関にあります。私の住んでいる姫路からは、約60km、車でおよそ60分かかります。国道29号線を北へ進み、山崎の手前の安志南の信号を右へ入ります。阪神方面からだと、中国自動車道を山崎インターで下り、国道29号線を少し姫路の方へ戻り、安志南の信号を改めて北に入ります。

ここから林田川の清流にそって5kmばかり行くと、赤い土壁と茅葺き屋根の千年家があります。全国でも一、二を争う古い遺構とのことで、10月の初めに訪れた時には、土壁のあちこちにヒラタグモの巣が見られました。

山間に細長く続く田畑や集落を過ぎ、山道を登っていくと、安富ダムがあります。

濃緑色の水をたたえたダムを見下ろしながら2kmばかり行くと、右手に「しそう森林王国」という看板が立っています。ここは、しそう森林王国「やすとみミニ王国」拠点エリアである「やすとみグリーンステーション鹿ヶ壺」のハイキングコースの入り口になっていて、鹿ヶ壺山荘やコテージ、キャンプ場やオートキャンプ場がつけられています。ここを登ると三ヶ谷の滝、千畳の滝、千畳平などがあり、かなり広い範囲がハイキングコースになっています。千畳平からは日本三彦山の一つ、雪彦山への登山コースもあります。

ここから少し車で走ると民家はなくなり、道の両側は、うっそうと茂る杉林になります。木の間から川の流れがたえず見え隠れしています。

「しそう森林王国」の看板から約1.5kmばかりで県道は終わり、ここからは車が一台通れるくらいの谷川ぞいに登って行く林道になっています。私はいつもここで車を置いて歩きます。すぐに「千寿の水」と書かれた水場があり、休日には水を汲みに来る人がたえません。ここも実はハイキングコースの一部ですが、ごく少数の人しか訪れず、網採集作業にはもってこいのところですよ。

このあたりの山は、杉や檜が植林されているところが多く、ざっと見たところそれは山の8から9割にも達するほどです。しかし私の歩く道の両側は、松の木がぽつぽつ残る雑木林が比較的よく残されています。10月の初めに訪れると「茸山につき入山禁止」の札が、ぶら下げられていました。松茸がざくざく採れるのかもしれませんが。

車を置いたところから「大かつらの木」を経て行き止まりまでのおよそ1.5kmばかりのコースが、私のお気に入りのフィールドです。(地図の◆から◆まで)

網を張るクモはとても豊富で、春には、サガオニグモやユノハマサラグモ、クスマサラグモ、続く夏にかけてはヤミイロオニグモ、ヨツデゴミグモ、タニマノドヨウグモ、ギンメッキゴミグモ、マネキグモ、オナガグモ、それにトリノフンダマシ類もいるようです。そして秋にかけてはアシナガサラグモにヒメグモ、オウギグモ、薄暗い

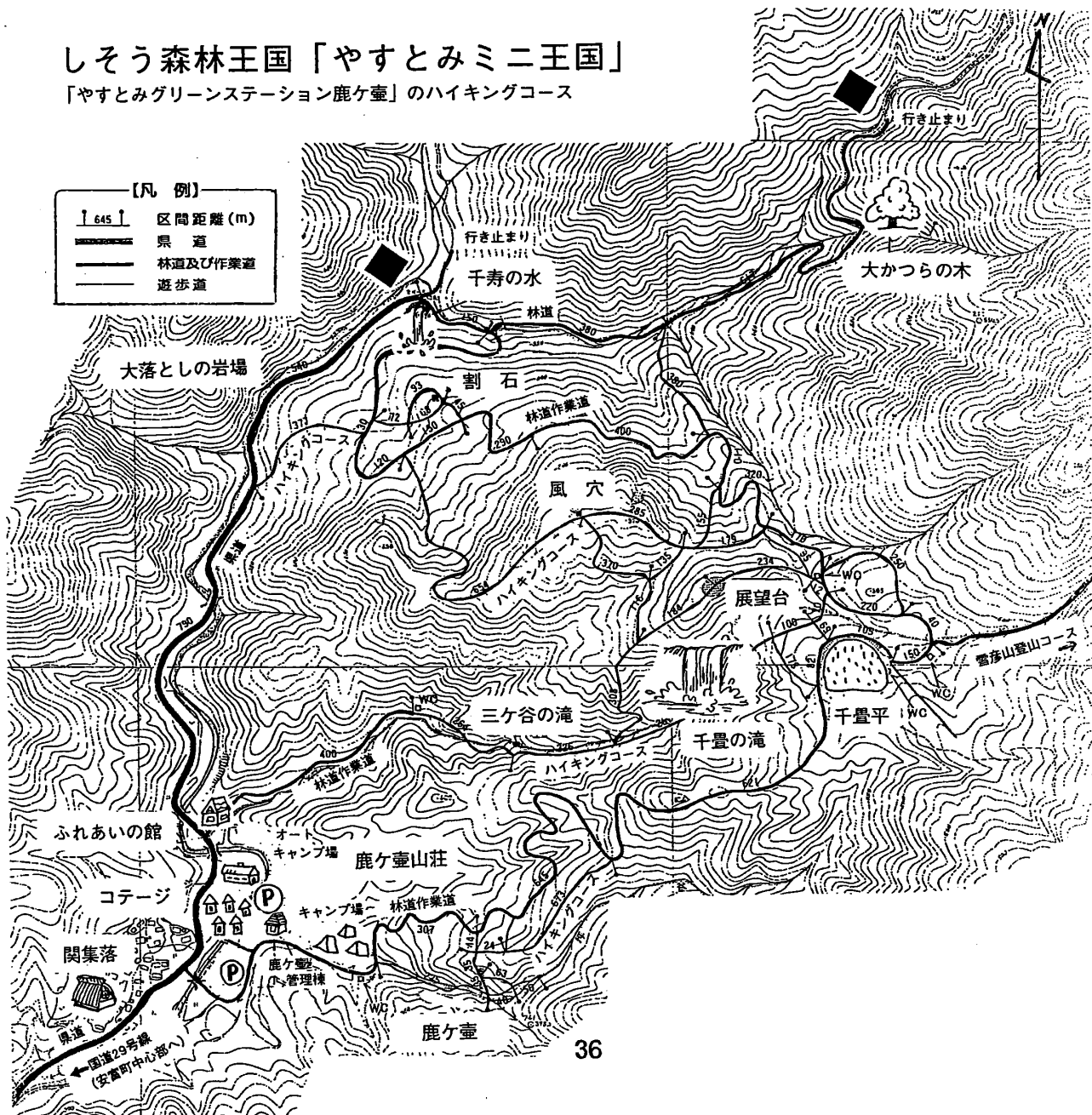
ところではカラカラグモ、ヤマジグモ、ヤマジドヨウグモ、ウズグモ類がたくさん網をはっています。コガネヒメグモやイシサワオニグモにも出会いました。

まだまだこれから新しい珍しいクモに出会えそうで、いつもわくわくしながら歩きます。たった1.5km弱の道のりですが、いつも数時間は往きつ戻りつして過ごします。朝早いと誰にも出会わず、しーんとしていて怖い気がします。10時頃になると水を汲みに来る人やアウトドアを楽しむ人がポツポツやって来ます。

私が気に入るフィールドの条件として、クモの種類が豊富なことはまず第一ですが、人があまり入ってこないこと、道は広く歩きやすく急な登りがないこと、車で気軽に現場まで行けること、などです。このような条件からいえば、ここ安富町関のコースはぴったりです。ただ少し遠いのとヤマビルがいるのが難点です。ヤマビルには手首や足に吸い付かれ、帰ってくると血まみれということが何度かありました。でもそれを考慮しても魅力のあるフィールドです。

しそ森林王国「やすとみミニ王国」

「やすとみグリーンステーション鹿ヶ壺」のハイキングコース



海外の研究トレンド(1)

クモ類の形質進化を探る

—分子系統樹最前線—

榘元 敏也

クモ類はかたちや生活様式が様々で、これらがどのように進化してきたのか、という問題は多くのクモ研究者の興味の対象である。Coddington & Levi (1991)は形態や行動などの表現形質を元にした系統樹を作っている。しかし、形態や行動などの形質が進化パターンと独立な現象とは考えにくい。そこで、なるべく表現形質とは独立な情報として分子系統樹が盛んにつくられるようになってきた。

分子系統樹というのはミトコンドリアや核内のDNAの塩基配列を種間で比較したとき、塩基配列の違いが大きい種間ほど共通の祖先種から分岐した時間がたっており、両種の分岐年代は古いと考えて作成する。形態や行動の情報と異なり、数量化が容易でその情報が多いこと、DNAの塩基置換は時間に依存することなどの理由から、今日ではもっとも信頼性のおける系統樹であると考えられるようになっている。

それでは、分子系統樹は万能か、というといくつか難しい点もある。それは、塩基の置換速度はどの塩基についても一定ではないことが挙げられる。例えばある塩基配列がタンパク質の機能に重要な影響を及ぼすような場合は、そうでない部分に比べて置換しにくいということが知られている。また、アミノ酸を指定するコドンのうち3番目の塩基は他の塩基に置換しても指定するアミノ酸が変化しないことが多い。このためコドンの3番目の塩基は1番目や2番目の塩基に比べて置換速度が早い。これらの個々の塩基の置換速度を考慮しないと正しい系統樹を描くことはできない。

同属内のような近い種間の系統樹ではこのような塩基による置換速度の違いはあまり問題にならない。しかし、科レベルの系統樹などを作ろうとすると、タンパク質をコードしていない塩基配列やコドンの3番目の置換情報は役にたたなくなってくる。これらの塩基の置換速度は早いので、科の違い程度になるとA→T→Aなどのように再び元の塩基に戻ったりすることが頻繁に起こるようになり、正しく系統の違いを推定できなくなるのである。

科レベルのような系統の離れたものどうしの分子系統を作るためには、塩基の置換速度がある程度遅い遺伝子領域を調べなければならない。

Hausdorf (1999)は核内のゲノムにある28SリボソームRNAの遺伝子、約900塩基を扱っている。28SリボソームRNA遺伝子の塩基の置換速度はミトコンドリア遺伝子などに比べれば非常に遅いので、クモの科レベルの分子系統樹を作成するには適当な遺伝子領域である。この研究では外群に原蛛亜目のクモを用いて、新蛛亜目のクモ8種の系統を調べている。さらに、この論文では系統樹を用いて次の3つの形質について比較が行われている。

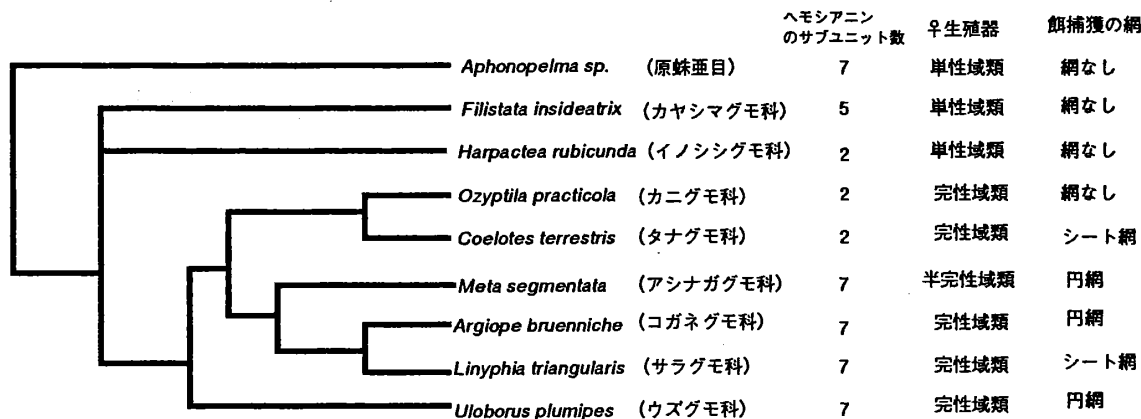
1) ヘモシアニンサブユニットの数; ヘモシアニンサブユニットは7つ、5つ、2つ

とクモ類では多様性がみられる。ヘモシアニンのサブユニット数を元に系統樹をつくると、完性域類は単系統ではないとされていたので、この点について検証している。

2) 雌の貯精囊の構造；クモの貯精囊の構造には2種類ある。受精管と交接管が同じで貯精囊への精子の出入り口が同じもの (cul-de-sac型または単性域類) と受精管と交接管が別で貯精囊への精子の出入り口が異なるもの (conduit型または完性域類) である。ところが、完性域類であるアシナガグモ科、ウズグモ科、ヨリメグモ科、エグチグモ科の一部の属では受精管が無いのである。Coddington & Levi (1991) は二次的に消失したのだと考えているが、この論文ではこの仮説の妥当性を検証している。

3) 餌を捕獲する網のかたち；円網は師板類と無師板類で見られる。円網が単系統なのかどうかは1990年代を通じて大きな議論になっていたが、最近ではCoddingtonの単系統説が有力であった。円網の進化が起きた後に師板類と無師板類の分化が起きたのであれば、円網は単系統であることを支持する。しかし、師板類と無師板類の分化が起きた後に円網の進化が起こったとすれば円網は単系統ではないことになる。

結果は下記の図のようにになっている。



28SリボソームRNAをコードするDNAの塩基配列から作ったクモ9種の分子系統樹。右にヘモシアニンのサブユニット数、♀の内部生殖器の構造、餌を捕獲する際に用いる網の種類を示した。(Hausdorf 1999より)

この系統樹から得られる結論は主に次の4点である。

(結果1) 完性域類は単系統である。

(結果2) ヘモシアニンのサブユニット数の減少は一部の系統で生じた。

ヘモシアニンサブユニット数は7つから、一部の系統で5つや2つに減少したとみられる。気管は体液に直接酸素を浸透させることができるので書肺よりもすぐれた呼吸器官であるが、サブユニット数の減少は書肺から気管へと呼吸器官が移り変わることと一致している点がおもしろい。

(結果3) 半完性域類は完性域類から二次的に進化した形質である。

貯精囊であるが、アシナガグモ科のMetaに注目すると、半完性域類は単性域類から完

性域類へ移行する中間形質ではなく、Coddington & Levi (1990)が述べていたように完性域類から二次的に進化した形質であることがわかる。ウズグモ科の中にも半完性域のクモが知られているので、どうやら半完性域類は複数回進化しているらしい。それにしても、なぜ、半完性域類のような貯精嚢が出現することになったのだろうか？貯精嚢と配偶システムとの関係を詳しく調べる必要がある。

(結果4) 円網は単系統ではなく、少なくとも2回進化した。

最後に円網の進化であるが、この結果も注目値する。Coddington & Levi (1990)が述べていた系統樹とは異なり、ウズグモ科とコガネグモ上科は単系統になっていない。むしろ、ウズグモ科はタナグモ科やカニグモ科の外に位置している。つまり、今回の分子系統樹の結果では、円網は1回進化したのではなく、少なくとも2回進化していることを示すのである。しかも、円網は師板類と無師板類が分岐したあとそれぞれで独立で進化したことがわかる。

この論文を読んで、私は出てくるものが出てきた、という感想をもつとともに、多様なクモの形質進化に関する研究のサイは投げられたと感じた。この論文の結果は、はじまりなのである。今後、もっと種数を増やして系統樹をつくる必要があるし、その結果によっては系統樹は異なったものになるかもしれない。さらには、どのような選択圧によって様々な形質の進化が起きたのかを明らかにしてゆかねばならないだろう。おもしろくなってきた。

参考文献

Coddington, J. A. and H. W. Levi. (1991). Systematics and evolution of spiders (Araneae). *Annual Review of Ecology and Systematics* 22: 565-592.

Hausdorf, B. (1999). Molecular phylogeny of araneomorph spiders. *Journal of Evolutionary Biology* 12: 980-985.

同定指南 I

ワシグモ科 Gnaphosidae (その1)

加村隆英

ワシグモ科の特徴

多くのクモ類では出糸突起が円錐状ですが、ワシグモ科では円筒状（つまり、先端部の太さが根元とほとんど同じ）です。そして、さらに出糸突起の前対（腹面から見たときに手前に見える大きな一対）が広く離れています（図1）。

ただし、ワシグモ科のなかでツヤグモ属 *Micaria* だけは例外で、出糸突起前対が接近しています。また、フクログモ科のフクログモ属 *Clubiona* でも、出糸突起が円筒状に近い場合がありますが、出糸突起前対は離れていません。

したがって、出糸突起の状態を見れば、ツヤグモ属を除いては、ほぼまちがいをなくワシグモ科であることが判かります。

ケムリグモ属とその近縁属

ケムリグモ属にはいくつかの近縁の属があり、それらはケムリグモ属複合群としてまとめられています。そのうち日本に分布するのは、ケムリグモ属 *Zelotes*, タイリクケムリグモ属 *Trachyzelotes*, カバキケムリグモ属 *Urozelotes*, ヨリメケムリグモ属 *Drassyllus* の4属です。

このグループの特徴は、第3脚と第4脚の蹠節先端の腹面に特殊な櫛歯状の毛列があることです（図2）。これはほんとうにきれいに整然と並んだ毛列です。他のグループで、この場所に毛がたくさん生えているものがありますが、それは密生した毛群で（図3）、毛列ではありません。この両者を混同しないようにしなければなりません。

これら4属は、下記の検索表によって、おおむね区別することができます。とはいっても、標本によっては、よくわからないこともあるかもしれません。（検索表というものは、それさえあればすべてが簡単にわかるように思われがちですが、現実には、ある程度たくさんの標本にあたって、「見る目」を養わないと使いこなせないという側面はあるものなのです。）

ともかく、このグループの各種は外見が互いによく似ていますので、幼体の場合は種を（場合によっては属も）同定することはあきらめたほうが無難です。成体であれば、雌の生殖器や雄の触肢によって、容易に種の区別ができます。

日本産ケムリグモ属複合群の属の検索

- 1. 後中眼がやや小さく、後中眼間はやや広い（後中眼の長径の半分程度）（図4）
ケムリグモ属
- 後中眼が大きく、後中眼間は狭い（後中眼の長径の半分より小）（図5）；ときには、後中眼どうしが完全に接する 2

- 2. 上顎の前面に太短い剛毛が密生する(図6) タイリクケムリグモ属
- 上顎の前面に剛毛はなく, ふつうの毛が生える 3
- 3. 全体に黄褐色 カバキケムリグモ属
- 全体に暗褐色 ヨリメケムリグモ属

今回はケムリグモ属を除く3属の各種について, その同定のポイントを説明します。

タイリクケムリグモ属 *Trachyzelotes*

日本産のこの属には2種が知られていますが, そのうちの1種は八重山諸島産ですので, 今回は省略します。残りの1種, タイリクケムリグモ *T. jaxartensis* (Kroneberg, 1875) は全体に暗褐色で, 体長は 6~9 mm。本州で記録がありますが, 採集される機会は多くありません。図7-9を参照してください。

カバキケムリグモ属 *Urozelotes*

日本産はカバキケムリグモ *U. rusticus* (L. Koch, 1872) の1種だけです。体長は 6~10 mm。他のケムリグモ属複合群の各種は全体に暗赤褐色ないし黒褐色であるのに対して, 本種だけは黄褐色ですので, 見当は付けやすいと思います。しかし, 個体によっては色の濃いものもありますから, 色だけで判断することはやはり危険です。屋内や人家周辺で発見されるようですが, 出会う機会はまれです。図10-11を参照してください。

ヨリメケムリグモ属 *Drassyllus*

日本産は次の4種です。

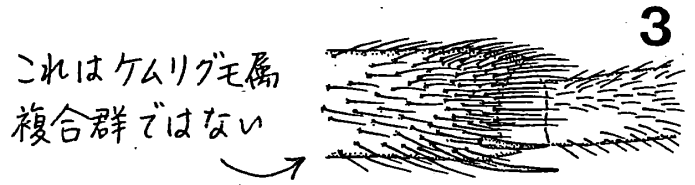
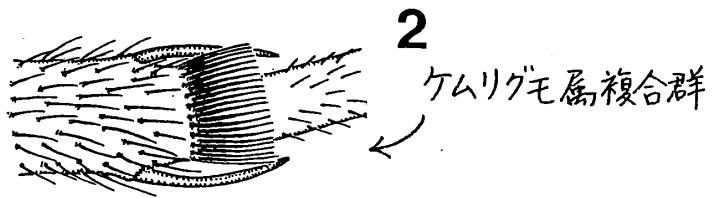
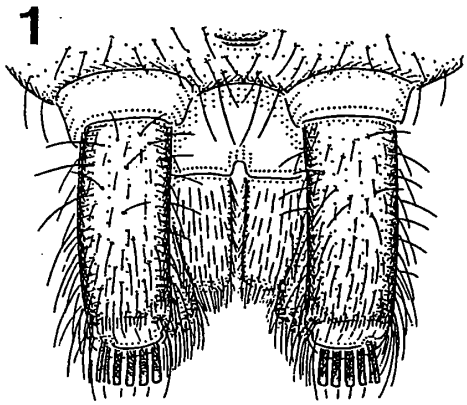
エビチャヨリメケムリグモ *D. sanmenensis* Platnick et Song, 1986 (図12-13)

ヤマヨリメケムリグモ *D. sasakawai* Kamura, 1987 (図14-15)

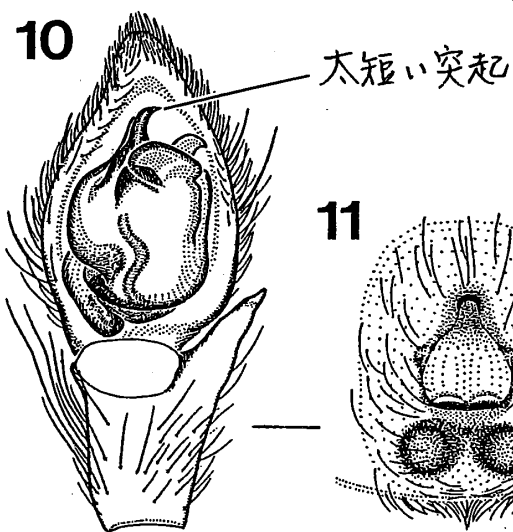
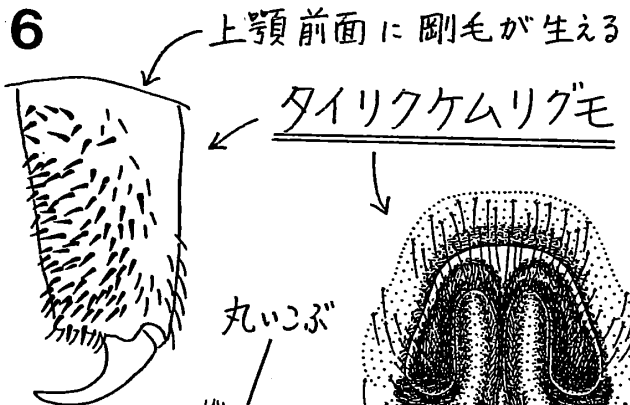
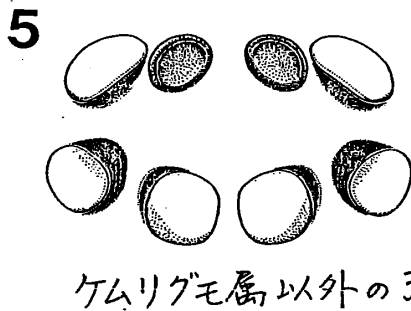
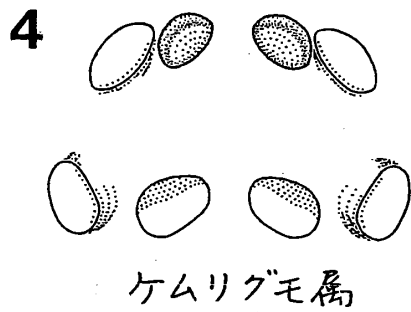
チクニヨリメケムリグモ *D. shaanxiensis* Platnick et Song, 1986 (図16-17)

ヒメヨリメケムリグモ *D. yaginumai* Kamura, 1987 (図18-19)

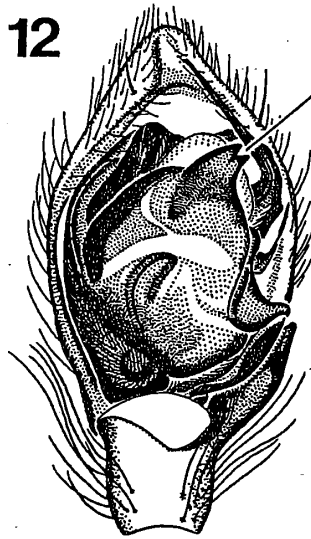
体長は 4.5~8.5 mm。いずれの種も全体に暗赤褐色ないし黒褐色で, 外見は非常によく似ていますが, 雌の生殖器および雄の触肢を見れば, 種の同定は容易です。図12-19を参照してください。



ワシグモ科の出糸突起 (腹面)

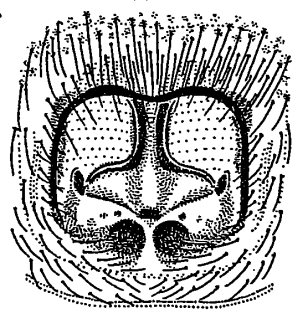


中央に○こんな形のプレート
カバキケムリグモ



先端がV字状
にくぼむ

エビチャヨリメ
ケムリグモ



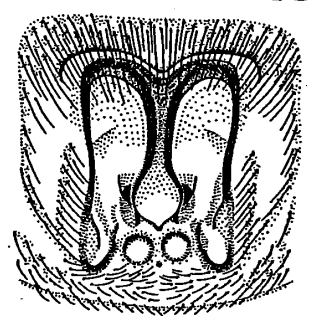
13
全体に四角形
やや横長

全体に四角形
縦長



小さな突起

ヤマヨリメ
ケムリグモ



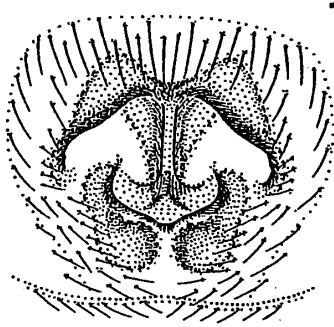
15

先端は
切断状

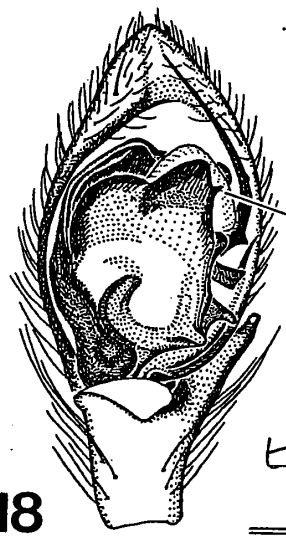


チクニヨリメ
ケムリグモ

下に張り出す

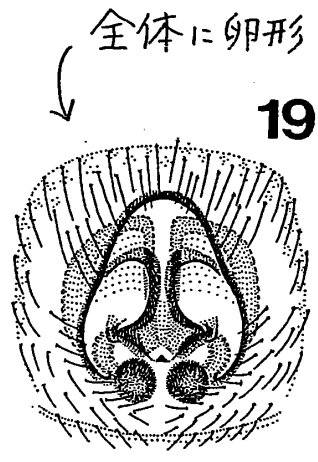


17
八字状のリッジ



小さな突起

ヒメヨリメ
ケムリグモ



全体に卵形

19

18

関西クモ研究会採集会報告

姫路市青山

船曳 和代

3月の採集会が雨で流れたので、今回はどうしても晴れて欲しいと祈っていました。その祈りが通じたのか当日は快晴。あまりよすぎて暑すぎ、みんなバテ気味。私が当初考えていたコースの半分ほどしか歩けませんでした。

参加者は5歳の池田勇介君を含めて11名。勇介君は、トリノフンダマシ、キララシロカネグモなんて“クモプロ”でなければ知っていないような名前がスラスラ出てくる素晴らしい男の子。将来はきっと立派なクモ学者に成長してくれることでしょう。東京からは、はるばる八幡明彦さんが参加してくださり、クモだけでなくヘビも採集して帰られました。

みんなでマメイタイセキグモ、カトウツケオグモなどの珍種を狙ったのですが、残念ながら採集できませんでした。それでもヒシガタヒメグモ、ゲホウグモなど、結構珍しいクモがとれました。少し季節が遅かったせいか幼体が多く、同定できないものもありましたが、しめて16科61種のクモを採集することができ、まずまずの成果だと思っています。

尚、下記のクモリストは、西川先生がまとめて送ってくださったものに、梶元さんと私の採集したものを、加村先生に同定していただいて追加し、完成したものです。ありがとうございました。

また皆様には姫路という遠いところまで、お忙しい中参加していただき、ありがとうございました。

日 時：1999年9月19日

場 所：兵庫県姫路市青山、姫路市科学館周辺、

桜山貯水池の東側～北側、30～50m、40～100～60m alt.

参加者：池田幸二、池田勇介、加村隆英、神吉伸幸、田中穂積、

西川喜朗、船曳和代、梶元敏也、梶元智子、八幡明彦、吉田真（以上11名）

ハグモ科

ネコハグモ 1♂y

ウズグモ科

オウギグモ

マネキグモ

ウズグモ

ヒメグモ科

ヒメグモ 1♀

アシプトヒメグモ

オオヒメグモ

オオツリガネヒメグモ 1♀

シロカネイソウロウグモ

オナガグモ
 チリイソウロウグモ 1♀
 フタオイソウロウグモ
 ヒシガタヒメグモ 1♀
 ヨロイヒメグモ 2♀、1♂
 スネグロオチバヒメグモ 2y
サラグモ科
 アシヨレグモ
 フタスジサラグモ
 アシナガサラグモ 1♀
センショウグモ科
 ハラビロセンショウグモ 1y
コツブグモ科
 ナンプコツブグモ 1♀
キシダグモ科
 イオウイロハシリグモ 2b
コモリグモ科
 チビコモリグモ
ササグモ科
 ササグモ 1♀、2y
フクログモ科
 イタチグモ 1♀、3y、4b
 ウラシマグモ sp. 1y
 アシナガコマチグモ 1♀
 クロサワフクログモ 1y
 ネコグモ 1y
ワシグモ科
 フタホシテオノグモ 1y
コガネグモ科
 ハツリグモ
 コゲチャオニグモ
 キザハシオニグモ 1y
 トガリオニグモ 1y
 コガネグモ
 ナガコガネグモ 1♀、多数
 コガタコガネグモ
 ギンメッキゴミグモ
 ゴミグモ 1y

トリノフンダマシ
 アカイロトリノフンダマシ
 コガネグモダマシ
 ゴマジロオニグモ 1♂
 ワキグロサツマノミダマシ
 ゲホウグモ 1y
 ズグロオニグモ 1♀y
アシナガグモ科
 オオシロカネグモ 3♀、1♀y
 キララシロカネグモ 1♀
 ジョロウグモ ♀、♂多数
 アシナガグモ
タナグモ科
 ヤマヤチグモ sp.
 ヤチグモ sp. 1y
カニグモ科
 コハナグモ 1y
 アズチグモ
ハエトリグモ科
 ネコハエトリ
 ウデプトハエトリ
 シラヒゲハエトリ
 アリグモ 1y
 デーニッツハエトリ 1♀
 カラスハエトリ
 アオオビハエトリ
 シラホシコゲチャハエトリ 1♀

(以上、16科61種)

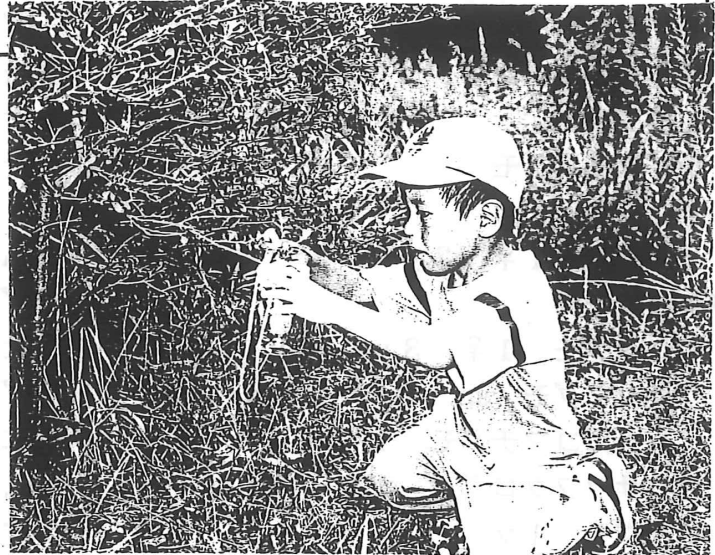
姫路採集会の感想

池田幸二

姫路の採集会に参加させていただき、皆様本当にありがとうございました。

蝶やカブト虫などの催しはあっても「クモ」に関するイベントは極めて少なく、昆虫館へ行っても展示もまれで、今回のような野山での採集は息子勇介にとっては、かけがえのない体験だったと思います。皆様の異様（失礼しました）なまでのクモに対する想いを見て、私自身もクモに対する考えが改められた様に思います。

息子自身はこの採集会以来、今まで以上にクモに興味を持ち、ジグモ、ワスレナグモを採るために近くの公園の木の根を毎日のように掘り歩いており、また、皆さんが小さなクモを吸い取るために使用していた器具の真似をして、幼稚園で友達とストローでクモをそのまま吸い込み、飲み込んでしまうということもありました。このように息子の「クモ」への関心は高まる一方で、次回の採集会にも大変足手まといではありますが、3歳の次男亮太と共に参加させていただきたいと思っています。



ペットボトルを改良して作ったクモボトルで、クモを採る池田勇介君。

9月19日の感想

かんき
神吉伸幸

9月19日、クモの観察会に参加させていただきましてありがとうございました。

学生時代、多少興味を持っていた程度の私ですが、自分の子どもにもクモに興味を持ってくれればと思い、3、4年前姫路自然観察の森でのクモの観察会に参加しました。しかし、子どもはあまり関心がなく、今は水泳に打ち込んでいます。

この6月に蜘蛛の巣展^註で船曳さんとお話しすることができ、今回の観察会を知り参加しました。

6年前の引っ越しの時、吸虫管・管瓶が行方不明になり、当日はナップサックにカメラ・ネットを入れ忘れてしまい、今回は用意を整えて参加させていただきます。今回、一番感動したことは「勇介君はスゴイ」の一言に尽きます。

蜘蛛エッセイ 第1回

蜘蛛好き変人とその仲間たち

—クモグッズ編—

八幡 明彦

前号の「くものいと」に姫路科学館での私と友人たちの様子を載せたところ、東京蜘蛛談話会の敦賀合宿の際に、吉田真さんから「八幡さんも変わったひとやなあ。ほんまに」と言われました。

幼いころからクモ観察採集が何より好きで、クモを生き物としても、文化的シンボルとしても愛してきた私は、友人のあいだでも、「クモの生まれ変わり」「半人半蜘蛛」として知られており、何かにつけて、ちまたの「クモもの情報」が寄せられることも多いのです。そんな中からいくつか紹介。

小田原寄木細工のクモ・クリップホルダー

国内外のカメをペットとして飼育している人たちのグループ旅行に加わったときのことで。帰りがけの高速のドライブインで、「師匠！クモっ！！」とわたしを呼ぶ声。カメ飼育から、わたしの感化でタランチュラ飼育へも関心を広げたYさんは、わたしのことを「師匠」と呼ぶのです。彼女の方に歩み寄って見ると、お土産売店の机に寄せ木細工のコーナー。針金で作った円網の中心に寄せ木細工のクモ。マグネットがついていてクリップホルダーになっているのでした(写真1)。

これは是非欲しい！と見ると、作った職人さんの名前まで書いてありました。店員さんによれば、最後の一品。少し針金部がサビているの目ざとく見つけ、セコく値切って購入。職人さんには手紙を出そうと思ったんですが、あいにく住所氏名を書いたメモをなくしてしまいました。

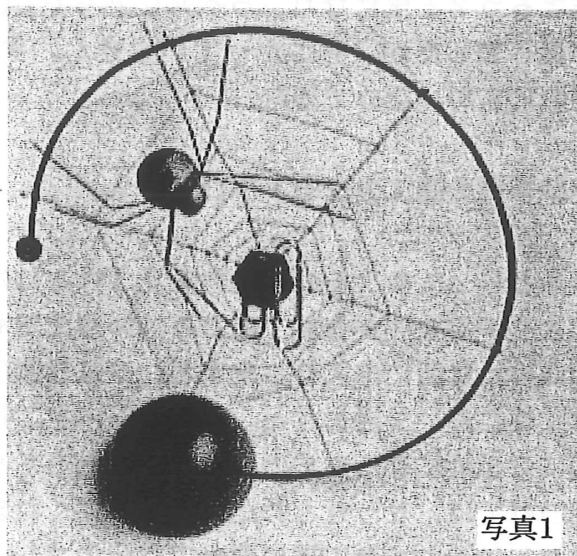


写真1

タイのタランチュラとイワガネグモのぬいぐるみ

もうかれこれ八年位前のはなし。タイのバンコック郊外にある、土日のみ開く巨大な青空市場に行きました。こういう何でもアリの雑多な売り場にいったら考えることはひとつ。なんでも良いから「蜘蛛モノ」を手当たりしだい探す、というのがわたしの

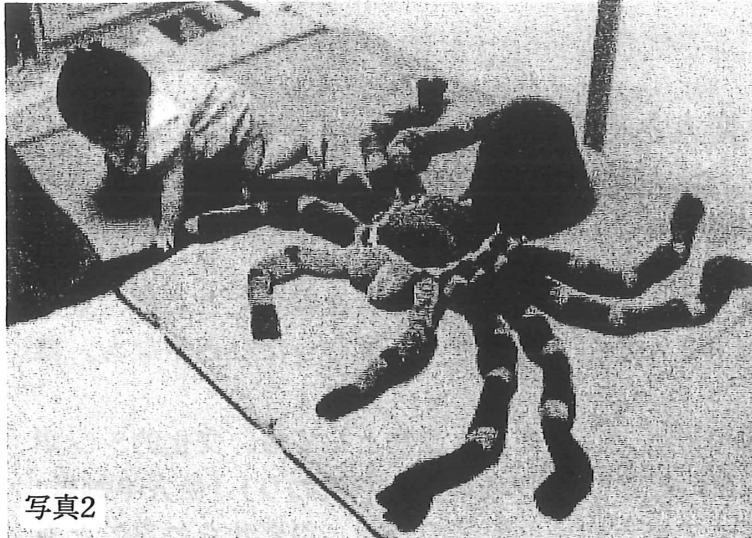


写真2

習性になっています。とある一角に、ぬいぐるみを扱う店があり、なんと体長60cm、レッグスパンで1mに及ぶ巨大ぬいぐるみ。「どうしても欲しい!」というのが顔に出てしまって、ほとんど値切れなかったのですが、5,000円出しても悔いのない、細部もよくできたものでした(写真2)。歩脚の節数も正しく、目が二つでなく四つ(実際オオツチグモ科は目が二つずつ隣接

して四ヶ所、ぱっと見て四つ目に見えます)というところもすばらしい。そして一年後、こんどはバンコック空港の売店で、同じく巨大サイズのイワガネグモ(*Eresus niger*: イワガネグモ科) オスのぬいぐるみを見つけました。真っ赤な腹部に黒い斑紋(写真3)。日本にはいない種です。こんなマニアックなぬいぐるみを作るのはどこの誰だろう?と気になり、ラベルにあったJASON's Toyというタイのおもちゃメーカーを探しましたが、見つかっていません。タイの商社に勤める人にまで、応援をたのんだのですが、だめでした。

手作り針金細工のクモ・ブローチ

なんといってもクモの細工物を見つけるには、ファンシーショップや飾り物屋に多く出入りする女性が有利であるのはいうまでもありません。私自身も人目を気にもせず、そういった店に出入りしますが、やはり頻度では女性に追いつきません。Tさんは主婦ですが、実にこまめにクモもののブローチやおもちゃを見つけては、せっせとわたしに見せてくれます。わたしはそれを全て買い取って自分のコレクションに加えるわけです。そんなTさんは、ある日、出来合いの細工物探しにあきたらなくなって、自分で針金を曲げてクモブローチを作っていました。ちなみに、彼女の家にはタランチュラの幼体が数頭いて、それらはわたしがプレゼントしたものです。クモのプロポーションを真似るには、タランチュラの生体が参考になったとのことでした。

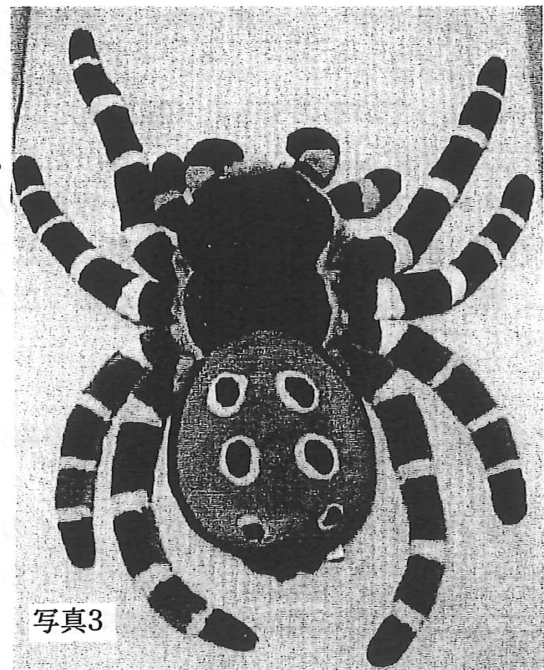
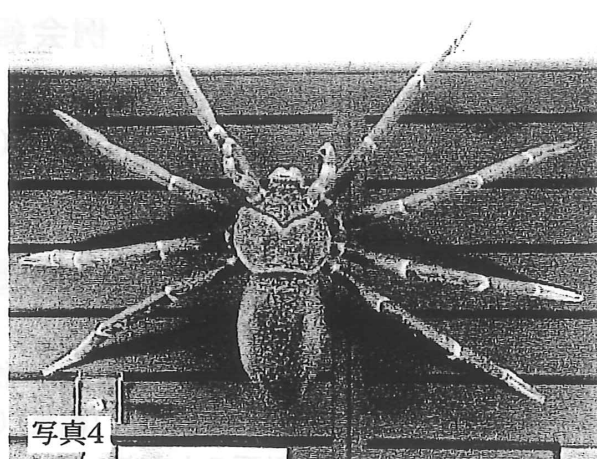


写真3

フロリダ爬虫類エキスポに展示された木彫のクモ

インターネットというものをやっている、海外のクモ好きの人たちとの付き合いも出てきます。主にタランチュラ飼育者（ちなみにうちでは幼体を含め数百頭飼っています）ですが、彼らから、アメリカのショーに来ないかと誘いがかかりました。フロリダ・オーランドでこの夏開催された「全米爬虫類ブリーダーズ・エキスポ」です。この会の詳細は省きますが、爬虫類やクモの生体の展示販売のほかに、木彫の置物を売っている店がありました。脚をひろげて約80センチ（写真4）。



脚の部分がとりはずしがきくので、なんとか持ちかえり可能、と踏んで、購入しました。ちなみに、このエキスポには、クモを専門にブリーディングしている人たちも来ていて、その詳細は、わたしの個人機関紙「土蜘蛛通信」2、3号に報告しましたので、興味ある方はご注文ください。

（一部送料込み490円 東京都荒川区南千住6-37-9-2601まで）

クモ入り琥珀

虫入り琥珀は多いですが、クモ入りというのはかなり稀少です。デパートの宝石・化石の販売コーナーや博物館のおみやげコーナーに来ると、わたしはいつも持ち歩いているルーペで一つ一つ虫入り琥珀をのぞきこみます。「昆虫」と書いたものでもクモが混じっていることがあるからです。音楽をやる方から、「ピンクスパイダー」という歌で有名なロック歌手のHideは、生前、かなり大きなクモ入り琥珀のブレスレットをしていた、と教えてもらいました。わたしは流行りの音楽などにもほとんど関心がないので、ひとに教えてもらって初めて、「そうか『クモもの』なアーティストもいたのだな」と知り、密かに歌を覚えて、カラオケで披露したりするのです。大きなクモの入った琥珀はわたしの憧れですが、先立つものがないので、たとえ出会っても残念ながら買えないでしょう。

そして今日も「くも、くも」とつぶやきながら街を歩くのでした。

会員ニュース

例会報告

関西クモ研究会 1999年度例会

1999年12月12日(日)に四天王寺高等学校(大阪市天王寺区)で、例会が開催された。

例会

◆例会に先立って、役員会が開かれた。

出席者：山野忠清(会長)、加村隆英(庶務)、牧野達也(会計)、吉田真(編集)、
榎元 智子(編集)、船曳和代(編集)(6名)。

話し合われた主な内容は以下のとおり。

1) 会員数

現在63名(当日、2名の入会申込があったので、65名になった)

2) 会計

会費納入状況について報告があった。会費の納入が滞っている会員には督促する。
1997年度から会計報告がなされていないので、1999年度までの報告を「くものいと」
第28号に掲載する予定。

3) 今後の行事予定

採集会：2000年5月28日(日) 姫路

2000年9月24日(日) 奈良方面(詳細は未定)

例会：2000年12月10日(日) 於：四天王寺高等学校

4) 「くものいと」の編集

現在、第27号の編集を進めている。2000年1月頃に発行の予定。従来の吉田真氏に
加えて、榎元智子氏と船曳和代氏が編集作業に加わるようになった。

例会

◆午後1時より例会。

参加者：池田幸二、池田勇介、加村隆英、坂口佳史、清水裕行、須賀瑛文、
田中穂積、谷川明男、東條 清、徳本 洋、船曳和代、牧野達也、
榎元敏也、榎元智子、山野忠清、吉田 真(計16名)

1) 講演発表

徳本 洋：福井県におけるイソコモリグモ

田中穂積：千島列島のコモリグモ(続報)

東條 清：和歌山県のセアカゴケグモ

清水裕行：八木沼健夫博士の分布資料を補強できそうな資料の発見

新海 明・谷川明男：県別クモ文献リストの分布、及び、リスト作成について

(新海氏は当日欠席されたので、発表は谷川氏によって行われた。)

谷川明男：沖縄のクモ 1999

吉田 真：京都・静原のクモ；京都府のクモ類 (2)

2) 庶務報告

上記役員会の内容が報告された。

3) すべての講演終了後、出席者全員が自己紹介と近況報告を行った。

今年も「関西クモ研究会例会」を無事終えることができました。

皆様ありがとうございました。

お知らせ

トピックス展「クモの網」—そのたくみな糸さばき— 開催中

場所：千葉県中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955番2号

TEL：043-265-3111

日時：2000年1月15日（土）～2月13日（日）

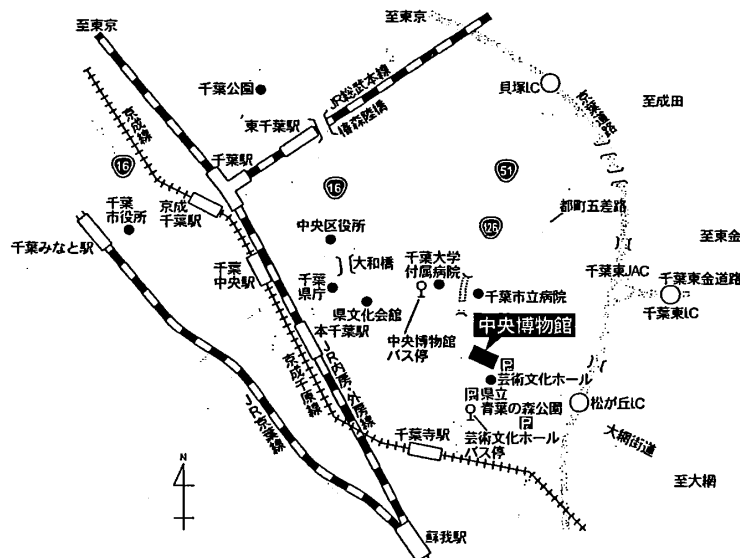
午前9時から午後4時30分（入館は4時まで）、月曜日休み（祝日の場合は翌日休み）

入館料：無料

◆千葉県在住の日本蜘蛛学会会員、工藤康恵さんのご尽力で「クモの巣、その糸さばき」を上記日程で開催する運びとなりました。

◆今回は急な決定で会場の都合もあり、クモグッズやクモの写真は展示できませんでしたが、私の網標本パネルのみを60点余り展示する予定です。

もしご都合がつけば、ご覧になって下さいますようお願いいたします。（船曳和代）



【交通】

★JR千葉駅または京成千葉駅からバス「中央博物館」下車、徒歩約5分。

★京成千原線「千葉寺」下車、徒歩約15分。

★車の場合は、京葉道路松ヶ丘インターチェンジから約5分。

Letter レター Letter

「クモ展」を開催して

姫路科学館 担当 斎藤道夫

平成11年6月26日（土）より特別展示室において「クモ展～身近な動物・小さな芸術家～」を開催いたしました。どちらかというとダークな存在であるクモをどのようなかたちで紹介していくのか、開催までにいろいろな課題がありました。船曳様や関西クモ研究会の方々の情熱で素晴らしい会場が出来上がりました。

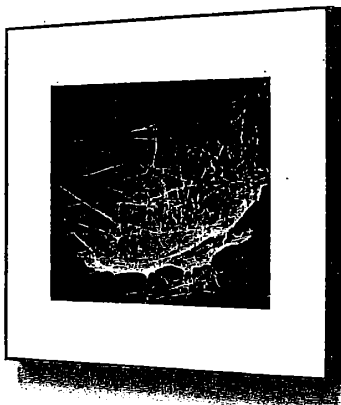
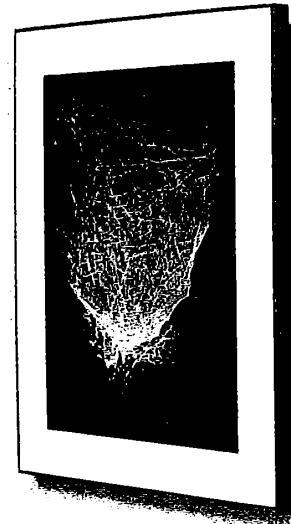
きっかけは前年の11月に芦屋の女性センターで、クモの網を採集して造形化したユニークな作品展「WEB ART」が開催されたことでした。その作品展をベースに企画が進められました。「クモ」の位置付けを気味の悪い存在から、大事な益虫・すてきな芸術家として認知されるよう工夫が凝らされました。

導入として会場の入り口付近にクモグッズを並べて違和感を払拭させ、さらにクモのデザイン画で目を楽しませて、本論のクモの標本・網・生態写真を生息環境別に配置し、ゴキブリ捕りの名人アシダカグモにつなげ、結論としてクモが私たちにとって有益な動物であることを印象付けました。そして、全体を修飾するために、クモのつく言葉、クモの詩歌・俳句、クモの遊びとして加治木町のクモ合戦を紹介したりと、大変盛りだくさんの内容になりました。

これだけ充実した企画展が催せたのも、関西クモ研究会の方々が総力を結集してバックアップしてくださったおかげと深く感謝しております。館独自で取り組んでもこれだけの内容を網羅することは無理だと思われれます。この企画展の反響はいろいろありました。そのすべてがプラスの評価だったことが大変ありがたかったです。夏休みを中心に小中学生が研究した科学作品にもクモについての研究が寄せられ、中には船

曳さんの手法で網の標本を作ったものも出品されました。これこそ科学館の使命が果たせた例と喜んでおります。

本館は地方の科学館ですので、広報も地域限定になります。せっかくのすてきな企画でしたので、大都市でも同様の企画を実施すれば、もっと多くの人々に「クモ」の市民権が認められるものと思います。関西クモ研究会の創意と工夫を本館で実施した「クモ展」に加えられて実施されればいいですね。



お詫びと訂正

くものいとNo.26の須賀瑛文さんの文中に誤りがありました。右に訂正してお詫び申し上げます。

		誤	正
P.9	18行目	予感	予報
P.9	20行目	雨胃	雨
P.10	12行目	策	作
P.11	9行目	但馬高植物園	但馬高原植物園
P.11	13行目	(10皿	(10皿)

編集後記

●あと数日で2000年という日にやっと編集を終えることができました。新しく編集メンバーに加わったものの、何かお手伝いできることがあるのかと不安でしたが、榊元智子さんが終始引張って下さり、少しですがお役に立つことができました。今回は新メンバーでの初仕事で、あれもこれもと欲張ってしまいましたが、思いがけずたくさん原稿が集まり、かなり充実したものができたと思っています。KISHIDAIAに追いつけ追い越せの精神で頑張っていきたいと思っています。今後ともたくさん原稿をお寄せ下さることをお願いします。(船曳和代)

●今回から「くものいと」の編集に参加させていただきました。同じやるなら、内容も見た目も某機関誌に負けない良いものにしたいと、はりきって新しい企画を考え、取り入れてみました。いかがでしたでしょうか。まずは、こちらの勝手な原稿依頼に文句も言わず応えてくださった執筆者のみなさまにお礼申し上げます。まだまだ満足のいくものではありませんが、まずは第一歩。少しずつグレードアップしていきたいと思っています。今後ともご協力ください。(榊元智子)

●榊元智子さんに「編集後記を書いてくれ」と言われたが、実は書くことがない。企画を立てたのは榊元さんと船曳さんだし、編集してくれたのは榊元さんである。私は彼女が編集したものを校正しただけだ。ここ数年私は、年末に一人さびしく、人けのない研究室でぶつぶつ言いながら「くものいと」の編集をするのが常であった。今回から榊元さんと船曳さんに編集部に入っただき、手書きの原稿が多い場合には清水さんや長谷川さんも手伝ってくれることとなった。

最近とみに思うことだが、女性パワーはすごい。榊元さんと船曳さんは、企画を立て、原稿を依頼し、どんどん話を進めていく。こんなに楽させてもらっているのだろうか？校正の段階になって、私は始めて27号の全貌を知った。54ページになるという。ワオー！これはもちろん、いままででもっとも分厚い「くものいと」である。

昨年(1998年)の例会で徳本さんは「くものいと」に対して、「地方の同好会なんだから、その地方のクモ・ファウナをもっと載せなくっちゃ」と苦言を呈された。この号には大阪と京都のクモリストが載っており、その点でも本来の機関誌の役割が果たされていると思う。ページ数が多いと印刷も製本も大変である。でもこれはうれしい悲鳴。がんばらなくっちゃ。(吉田真)

〈関西クモ研究会〉 会長 山野忠清
編集 吉田 真
船曳和代
榊元智子
庶務 加村隆英
会計 牧野達也
顧問 西川喜朗

くものいと27号 発行年月日 2000年1月15日
発行者 関西クモ研究会(代表 山野忠清)
住 所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学 生物学研究室内
TEL: 0726-41-9550 (加村研)
